

DIAGNOSTIC TOOL
取扱説明書

HDM-10000

(機能操作編)



このたびは、日立Astemoダイアグノスティックツール HDM-10000をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の十分な活用と安全なご使用のために、取扱説明書はいつも手元におき、よくお読みいただいたうえでご使用ください。

もくじ

安全上のご注意	1
使用上のご注意	4
本体各部の名称と働き	5
本体仕様、構成部品一覧	6
初期設定と ID の確認	
1. 車両への接続と HDM-10000 の起動	7
2. HDM-10000 メニューのアイコンについて	7
3. 設定画面の起動	8
4. 表示言語の設定	8
5. コントラストの調整	8
6. キーパッドのバックライトの設定	8
7. メーカーの自動選択	8
8. 時計の設定	8
9. 本体 ID の確認	9
車両登録	
1. 新規登録	10
2. 登録済車両選択	11
3. 登録済車両削除	12
更新	
1. Wi-Fi によるアップデート	14
2. PC によるアップデート	15
診断機能の操作	
1. 操作画面の基本的な流れ	16
2. 車両への接続と HDM-10000 の起動	17
3. 診断ソフトの選択からメインメニューの表示まで	17
4. 故障コードの読取	18
5. フリーズフレーム	22
6. 故障コードの消去	24
7. DTC ヘルプ	25
8. データモニタ	25
9. カスタマイズ	27
10. 作業サポート	28
11. アクティブテスト	28

特殊機能の操作

1. メニューのアイコンについて 29
2. 簡易バッテリーテスト 29

J2534 モード / 検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

- | | |
|---|----|
| 目次 | 31 |
| 使用状況別の参照先 | 31 |
| 1. J2534 モードについて | 32 |
| 2. HDM-10000 と PC で構成される
検査用スキャンツールを使用するに当たっての準備 | 32 |
| 3. 特定 DTC 照会アプリのインストール、操作方法について | 32 |
| 4. HDM-10000 の対応通信プロトコル | 32 |
| 5. 初期設定 : ユーティリティソフトのインストール | 33 |
| 6. J2534 モードの起動 | 34 |
| 7. PC との接続設定 | 35 |
| 8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定 | 38 |
| 9. OBD 検査または OBD 確認の実行 | 38 |
| 10. 検査完了後の HDM-10000 の操作 | 39 |
| 11. 初期設定完了後の操作について | 39 |
| 12. その他の設定方法 | 39 |

表示画面のスクリーンショット

1. スクリーンショットの実行 40
2. スクリーンショットされた表示画面の再生 40

履歴

1. 故障コードの再生 41
2. データモニタの再生 42
3. 保存データの削除 42
4. レポート再生、レポート削除での登録済車両の選択 43

保存データをパソコンで閲覧する

診断結果を印刷する

DiagPrintout-2 について

ユーザー情報の変更 / 不具合発生時の対応について

ホームページのご案内

保証・お問い合わせ先

安全上のご注意 (必ずお読みください。)

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

1. 警告と注意

表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

2. その他お守りいただく事項について

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



この絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。



この絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。









この絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。







警告

<p><u>ギアがパーキング(MT車の場合ニュートラル)になっていることを確認する</u> 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>サイドブレーキが確実に引かれていることを確認する</u> 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>小さいお子様の手の届かない場所で使用、保管する</u> 事故やけが、感電の原因となります。</p>	
<p><u>作業サポートおよびカスタマイズは、カーメーカー発行の整備マニュアルにより作業内容を十分理解したうえで、正しい手順で行なうこと</u> 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。</p>	
<p><u>本体に供給する電源電圧は32V以下とする</u> 破壊、感電、発火する場合があります。</p>	
<p><u>暗い場所で作業を行わない</u> 事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ぬらしたりしない</u> 火災や感電の原因となります。</p>	
<p><u>故障のまま使用しない</u> 画面が表示されない、スイッチが操作できないなどの故障の状態でご使用しないでください。すぐにご使用を中止してお買上げの販売店にご相談ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	
<p><u>USB端子を指で触れたり異物を入れない</u> 事故や感電、火災、本製品の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>直射日光があたる場所や高温になる場所、炎天下の車室内に放置しない</u> 火災や感電、故障などの原因となります。</p>	
<p><u>運転者は運転中にこの製品を使用しない</u> 交通事故の原因になります。 運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてから使用してください。</p>	
<p><u>異常のまま使用しない</u> 万一、煙が出ている、変なおいや音がするときは、すぐにご使用を中止してください。また、お買上げの販売店にご相談ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルの被覆が破れた状態で使用しない</u> 火災や感電の原因となります。</p>	
<p><u>分解や改造はしない</u> 火災や感電、故障などの原因となります。</p>	

警告

<p><u>整備の際、排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する</u> やけどの原因となります。</p>	 
<p><u>ケーブルに足を引っかけたて転倒しないように注意する</u> けがの原因となります。</p>	
<p><u>整備の際、手や手袋、衣服などが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する</u> けがの原因となります。</p>	
<p><u>車両側ハンドルにHDM-10000本体裏面のスタンドで本体を立てかける場合はHDM-10000本体の落下防止に注意して立てかけ使用する</u> 車両側、本体側の破損の原因となります。</p>	
<p><u>車両側ハンドルにHDM-10000本体裏面のスタンドで本体を立てかけた状態では運転をしない。運転を行う時は必ずHDM-10000本体を車両側ハンドルから取り外す。</u> 交通事故の原因となります。</p>	

注意

<p><u>本製品を長期間使用しない場合は車両から取り外す</u> 車両バッテリーの消耗および発火の原因となります。</p>	
<p><u>本体画面表示部をたたいたり、強く押したり傷をつけたりしない</u> 画面表示部の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>本体やケーブルが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する</u> ショートや断線により、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>本体やケーブル類が、排気部等のエンジンの高温部分に触れないように注意する</u> 事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルは指定品を使用してください</u> 指定品以外の使用は事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルをHDM-10000本体に巻き付けしないでください</u> ケーブルの被覆破れ、断線の原因となります。</p>	

使用上のご注意

- 端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。
- エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリー液を本体に付着させないでください。本体表面の変質の原因となります。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。
- イグニッションキーONの状態ではDLCコネクタからOBDIIケーブルを抜かないでください。故障の原因となります。
- 温度0℃～50℃、湿度80%以下の環境でご使用ください。
- ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますので、ご使用を中止し新しいものに交換してください。
- 本体は防水されていませんので、水に濡らさないでください。

取り扱いについて

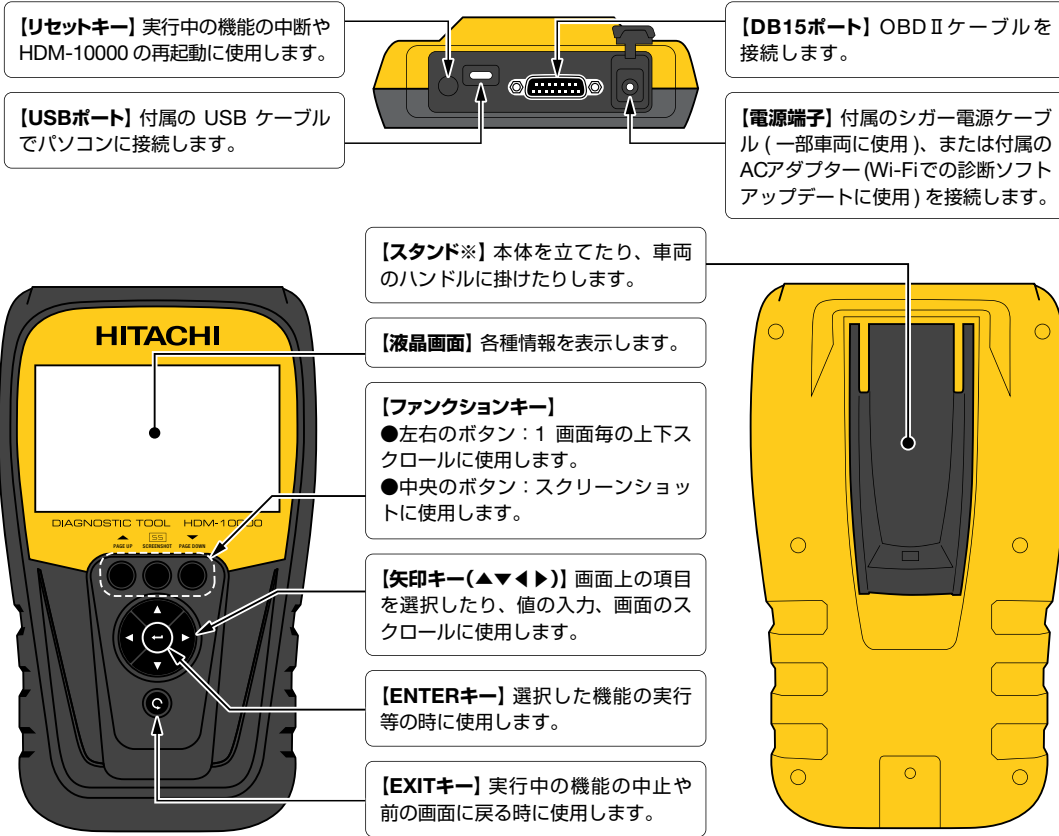
- 衝撃を与えないでください。
本製品を落下、たたきなどして衝撃を与えると故障の原因となります。
- ケーブルを無理に引っ張らないでください。
OBDIIケーブルやUSBケーブルを外す際など、ケーブルを無理に引っ張ると断線など故障の原因となります。外す際は、コネクタを持って外してください。
- 付属のシガー電源ケーブル、ACアダプター以外を本体側電源コネクタに差し込まないでください。
本体、車両側ともに故障の原因となります。
- 付属のACアダプターはWi-Fiによる診断ソフトの更新時に使用します。
OBDIIケーブルで車両のDLCコネクタに本体を接続している時は付属のACアダプターによる給電は行わないでください。本体側、車両側ともに故障の原因となります。
- 付属のシガー電源ケーブルはいすゞ車のエルフ(OEM車のアトラス、コンドル、タイタン含む)で、1999年～2006年のDLCコネクタに電源端子が無い車両の診断で使用します。
その他の車両では使用しないでください。本体側、車両側ともに故障の原因となります。

保管場所について

下記の場所には保管しないでください。

- 水のかかるところ
- 強い衝撃が加わるところ
- 温度-20℃以下70℃以上のところ
- 湿度80%以上のところ
- つゆつき(結露)が発生しやすいところ
- 直射日光のあたるところ

本体各部の名称と働き



※ ⚠️ 車両のハンドルに本体を立てかけた状態で運転をしないでください。事故の原因となります。（運転時はハンドルから本体を取り外す）

画面説明

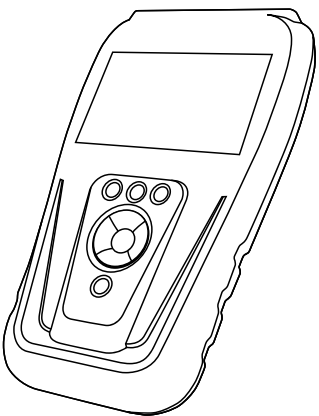
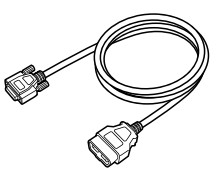

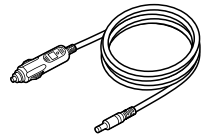
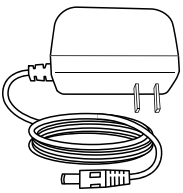

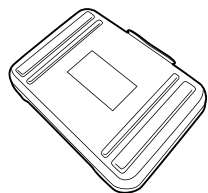


本体仕様

① 表示部(LCD)	5.0インチ TFTカラー液晶(800×480pixels)
② OS	FreeRTOS
③ 操作キー	ENTER/EXIT/↑/↓/→/←/リセット/PAGE UP/PAGE DOWN/SCREEN SHOT
④ 標準I/F	High speed CAN、Low Speed CAN、Single Wired CAN ISO-9141、ISO-9141-2、KWP2000、SAE-J1708、J1850(PWM-VPW) Generic(pull-up、UART×2)、DDL、MMC、ISO13400(DoIP)
⑤ PCI/F	USB Type-C 2.0 High Speed
⑥ CPU	ARM Cortex M7
⑦ ROM(OS)	2MB
⑧ ROM(AP)	microSDHC card(32GB)
⑨ RAM	256MB+8MB
⑩ 内蔵電池	3.0V(時計用)
⑪ 電源電圧	DC8~32V
⑫ 使用温度範囲	0~50℃
⑬ 保存温度範囲	-20~70℃
⑭ 湿度	20~80%RH(結露なきこと)
⑮ 本体サイズ	140mm(W)×240mm(H)×50mm(D)
⑯ 本体質量	560g
⑰ プリンタIF	Bluetooth BR/EDR BLE4.2

※製品仕様および外観は予告なく変更することがあります。

構成部品一覧

 <p>HDM-10000 本体…1台 〔保護フィルムを剥がしてご使用ください。〕</p> <p>〔・USBケーブルを使用する際はUSBポートのカバーを外してください。〕 〔・USBポートのカバーを外す際は紛失しない様、保管してください。〕</p>	 <p>OBD II ケーブル … 1本</p>	 <p>USB ケーブル (Type-C) … 1本</p>	 <p>シガー電源ケーブル … 1本</p>
	 <p>AC アダプター … 1個</p>	 <p>クイックスタートガイド … 1部</p>	 <p>キャリングケース … 1個</p>

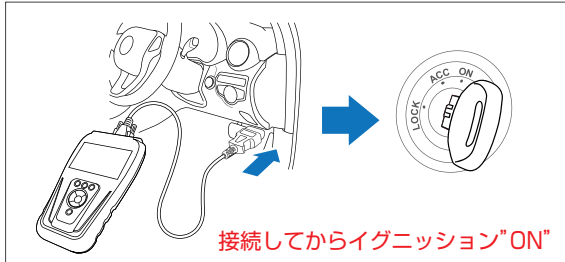
リスト内の製品は予告なく変更する場合があります。

初期設定とIDの確認

「設定」メニューで本体の表示言語、コントラスト、内部時計の設定が可能です。車両に接続を行って設定を行ってください。また、ダウンロード期限、保証期間、シリアル番号の確認は「本体 ID」を選択してください。

1. 車両への接続と HDM-10000 の起動

- ① HDM-10000本体の DB15ポートに OBDIIケーブルのコネクターを差し込み、ネジで固定してください。
- ② イグニッションキーが“OFF”の状態ですら両側 DLC コネクターに HDM-10000を接続してください。



1999年～2006年のいすゞ車のエルフ(OEM車のアトラス、コンドル、タイタン含む)で、DLCコネクターに電源端子が無い車両では、本体キット付属のシガー電源ケーブルをHDM-10000に接続してください。

- ③ HDM-10000が起動し、メニューが表示されます。



矢印キー▼でスクロール



2.HDM-10000 メニューのアイコンについて

メニューに表示されている各アイコンの機能は下表の通りです。



① 診断

このアイコンを選択すると診断ソフトの選択画面に進みます。16 ページ以降を参照ください。



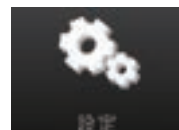
② 特殊機能

エーミング、DPF再生、エア抜き等の作業サポート、簡易バッテリーテストを行います。29 ページ以降を参照ください。



③ 履歴

データモニターや故障コードの保存データの再生と削除を行います。41 ページ以降を参照ください。



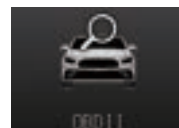
④ 設定

表示言語、内部時計、コントラストの調整を行います。8 ページを参照ください。



⑤ 本体 ID

シリアル番号、ダウンロード期限、本体の保証期間の確認が可能です。9 ページを参照ください。



⑥ OBDII

OBDIIソフトによる診断を行います。



⑦ 更新

Wi-Fi (2.4GHz 帯) を使用した診断ソフトの更新を行います。14 ページ以降を参照ください。



⑧ 車両登録

車両のナンバープレートの情報の登録を行います。10 ページ以降を参照ください。

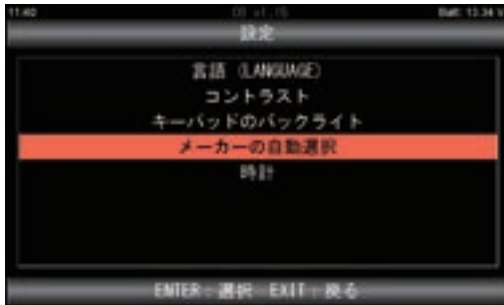
初期設定とIDの確認

3. 設定画面の起動

- 1 メニュー画面で「設定」を選択して ENTER キーを押してください。



- 2 設定画面が起動します。上下矢印キーで設定したい項目を選択して ENTER キーを押して確定してください。



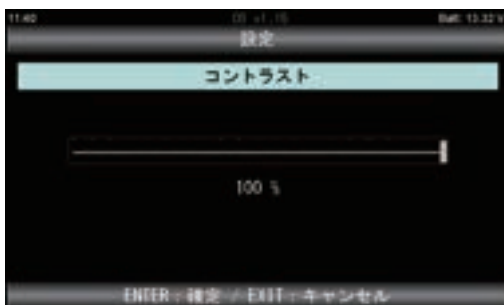
4. 表示言語の設定

上下矢印キーで言語を選択して ENTER キーを押して確定してください。選択できる言語は「日本語」「英語」「ロシア語」です。



5. コントラストの調整

上下矢印キーで 10% ずつ、左右矢印キーで 1% ずつ変更できます。変更が完了しましたら ENTER キーを押して確定してください。



6. キーボードのバックライトの設定

バックライトの輝度を上下矢印キーで 10% ずつ、左右矢印キーで 1% ずつ変更ができます。変更が完了しましたら ENTER キーを押してください。



7. メーカーの自動選択

「診断」実行時に車載コントロールユニット内の VIN ナンバーを読み取り、診断ソフトを自動選択する機能です。左右矢印キーで ON、OFF を切り替えてください。(トラック診断時は事前に OFF にしてください。)



8. 時計の設定

変更したい項目にカーソルを移動して上下矢印キーで変更してください。変更が完了しましたら ENTER キーを押して確定してください。



HDM-10000 はデータ保存のファイルや作業履歴のファイルを保存する際、本画面で設定された時刻をファイル名とします。また、作業サポート機能によっては本画面で設定された時刻を使用するものがございますので、HDM-10000 の各機能を使用する前に時計の設定を確認してください。

初期設定とIDの確認

9. 本体IDの確認

- ① メニュー画面で「本体ID」を選択して ENTER キーを押してください。



- ② 「本体 ID」の画面が表示され本体シリアル番号、OSバージョン、ダウンロード期間、本体保証期間が表示されます。



車両登録

車両のナンバープレートの情報（地名、車種コード、ひらがな、一連指定番号）を登録し、ナンバープレートの情報毎に診断ソフトの使用履歴、保存データを関連つける機能です。

同一車両が再入庫した際、登録したナンバープレート情報を呼び出すことで診断ソフトの選択を省略して診断を開始したり、保存データの閲覧を行いやすくすることが可能です。

1. 新規登録

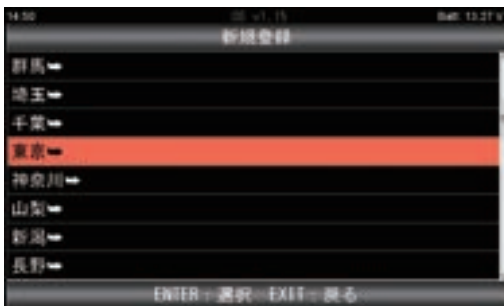
- ① 「車両登録」を選択して ENTER キーを押してください。



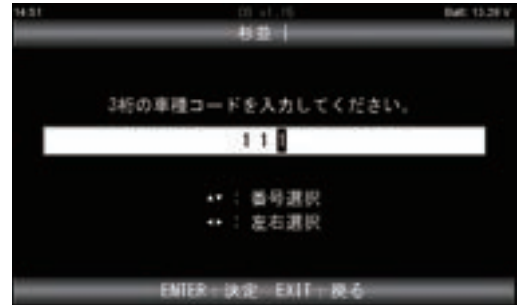
- ② 「新規登録」を選択して ENTER キーを押してください。



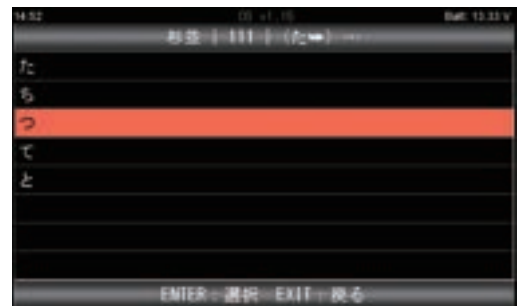
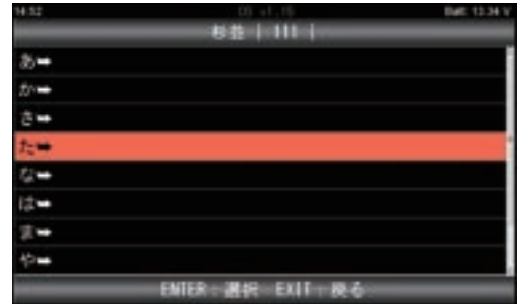
- ③ ナンバープレートの地名を選択して ENTER キーを押してください。



- ④ 3桁の車種コードを入力して ENTER キーを押してください。
左右キーで桁の変更、上下キーで番号を変更してください。



- ⑤ 車両の用途を示すひらがなを選択して ENTER キーを押してください。



- ⑥ 4桁の一連指定番号を入力して ENTER キーを押してください。

左右キーで桁の変更、上下キーで番号を変更してください。



車両登録

- 1 メーカー選択画面が表示されます。矢印キーでカーソルをメーカー名に移動させて、ENTER キーを押してください。



- 2 登録内容を確認して、間違いがなければ ENTER キーを押して決定してください。変更がある場合は、EXIT キーを押して戻り修正してください。



- 3 登録が完了しました。ENTER キーを押すと「診断」からメーカー選択が完了した後の画面に移り、そのまま診断を開始することができます。EXIT キーを押すと車両登録画面に戻ります。



Hint 登録できる件数は HDM-10000 本体内の保存領域の空き容量によります。

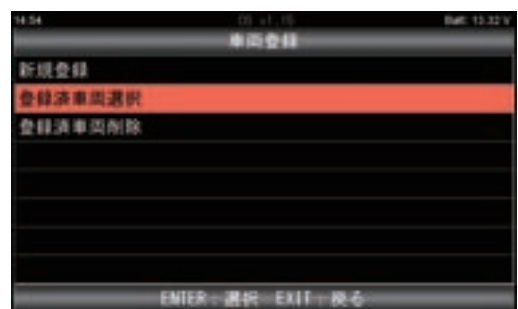
Hint ③の画面のあとで診断を開始し、各診断ソフトで故障コード、データモニタ、スクリーンショットなどのデータ保存を実行すると、登録したナンバープレートの名前がついたフォルダー内（例:杉並111つ2222で登録した場合、フォルダー名はSuginami_111_TSU_2222となります）にデータが保存されます。PCにHDM-10000本体をUSBケーブルで接続してPC上で保存データの閲覧や愛車診断レポート、作業サポートレポートを作成するときはHDM-10000のフォルダー内のReportのフォルダー⇒RegVehicleのフォルダー⇒カーメーカーの名前のフォルダー⇒登録したナンバープレート名のフォルダーの順番で開いてください。

2. 登録済車両選択

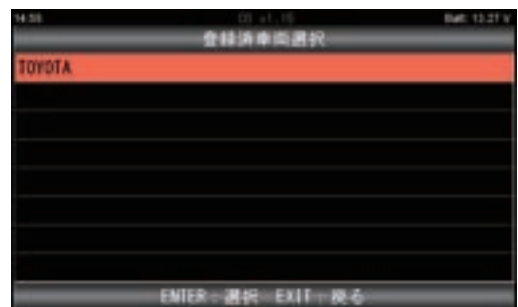
- 1 「車両登録」を選択して ENTER キーを押してください。



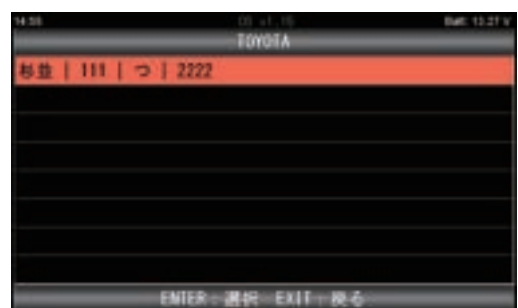
- 2 「登録済車両選択」を選択して ENTER キーを押してください。



- 3 メーカーを選択して ENTER キーを押してください。



- 4 診断するナンバーを選択して ENTER キーを押してください。



車両登録

- ⑤ 選択したナンバーに間違いがなければ ENTER キーを押してください。



- ⑥ イニシャライズが完了すると、選択したナンバーのメーカーのメインメニューが表示されます。

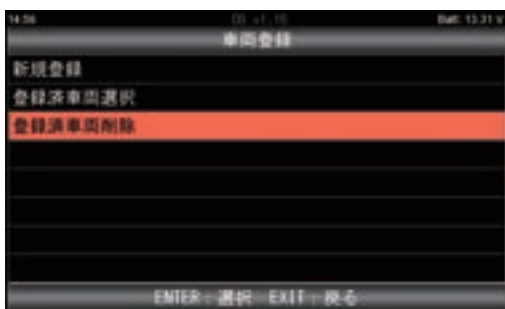


3. 登録済車両削除

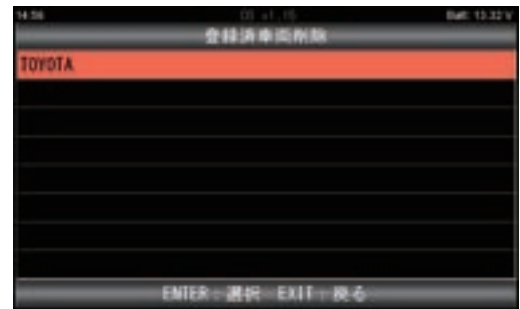
- ① 「車両登録」を選択して ENTER キーを押してください。



- ② 「登録済車両削除」を選択して ENTER キーを押してください。



- ③ メーカーを選択して ENTER キーを押してください。



- ④ 削除するナンバーにカーソルを合わせてください。



- ⑤ 「選択・解除」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。
削除する車両ナンバーにチェックマークがついていることを確認してください。



- ⑥ 「削除」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



車両登録

- ⑦ ENTER キーを押して決定してください。



- ⑧ 削除が完了しました。



更新

2.4GHz帯のWi-FiネットワークにHDM-10000を接続して診断ソフトのアップデートを行います。※PCに接続しなくても、診断ソフトの更新が可能です。

尚、本機能による更新は一連の初期設定（PCをHDM-10000本体に接続してユーザー登録からHDM-10000への診断ソフトの初回ダウンロード）が完了してから実行することが可能です。

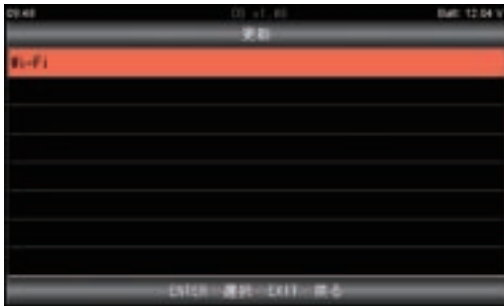
※5GHz帯のWi-Fiネットワークでの診断ソフトのアップデートは対応しておりません。

1.Wi-Fi によるアップデート

- ① 付属の AC アダプタを使用して本体に電源供給します。「更新」を選択して ENTER キーを押してください。



- ② 「Wi-Fi」を選択して ENTER キーを押してください。



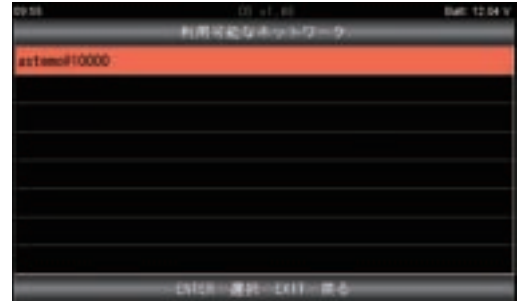
- ③ Wi-Fi 機能が ON になります。



- ④ Wi-Fi ネットワークの検索が開始されます。



- ⑤ 利用可能なネットワークが表示されます。



接続履歴が HDM-10000 本体に保存されているネットワークを検知した場合は「既知のネットワークが見つかりました」と表示されます。この画面で ENTER キーを押すと⑥⑦の操作が省略され、15 ページの⑧が実行されます。別のネットワークに接続する場合は EXIT キーを押して「利用可能なネットワーク」を表示させてください。



- ⑥ 利用するネットワークを選択するとセキュリティキーの入力画面が表示されます。入力して「OK」を選択してください。誤って入力した文字の削除は画面上のキーボードの右上にある「⇐」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ⑦ 選択したネットワークへの接続が開始されます。



(次ページへ)

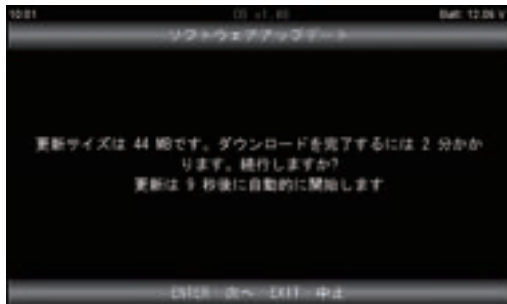
更新

- ⑧ 「ファイルのリストを取得しています」と表示されたあと、ファイルの整合性のチェック(最新版の診断ソフトの確認)が開始されます。



ファイルの整合性のチェックが完了したあと、「更新は必要ありません」と表示された場合、診断ソフトは最新状態のため⑨以降の操作は不要です。ENTER/EXIT いずれかのキーを押して終了してください。

- ⑨ ダウンロードの確認画面が表示されます。ENTER キーを押すか、しばらくすると自動で開始します。



更新サイズ、ダウンロードが完了に必要な時間は、実行する時の状況による異なります。

- ⑩ ダウンロードが開始されます。



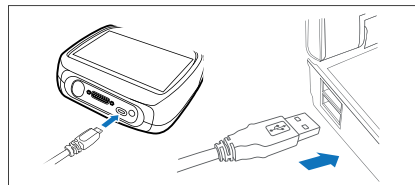
- ⑪ 更新完了です。ENTER/EXIT いずれかのキーを押して終了してください。



2.PC によるアップデート

インターネットに接続された Windows10 以降の PC を使用してください。

- ① HDM-10000 と PC を付属の USB ケーブルで接続してください。

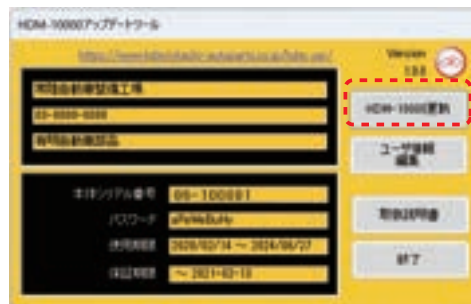


- ② PC の画面上に HDM-10000 フォルダが開きます。フォルダ内の HDM-10000.exe のアイコンをクリックしてください。



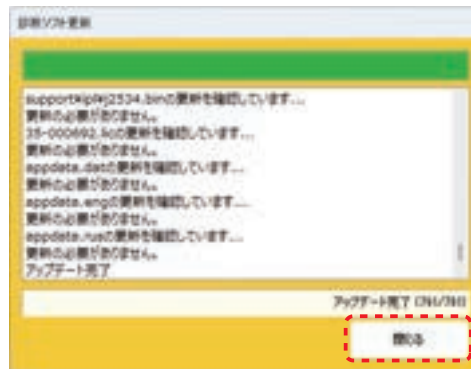
フォルダの自動再生が実行されない場合は、パソコンの画面下部に表示されているタスクバーの「エクスプローラ」をクリックしてください。その後、「HDM-10000」をクリックして、フォルダを表示させてください。

- ③ HDM-10000 アップデートツールが表示されます。HDM-10000 更新をクリックしてください。



「HDM-10000 更新」ボタンの色が反転している場合はダウンロード期限切れです。アップデートツールの使用期限に表示されている日付がダウンロード期限ですので、ご確認のうえ、カスタマーサポートセンターへ振込用紙の発行依頼を行ってください。

- ④ 最新の診断ソフトのダウンロードが開始されます。アップデート完了が表示されましたら、閉じるをクリックしてください。



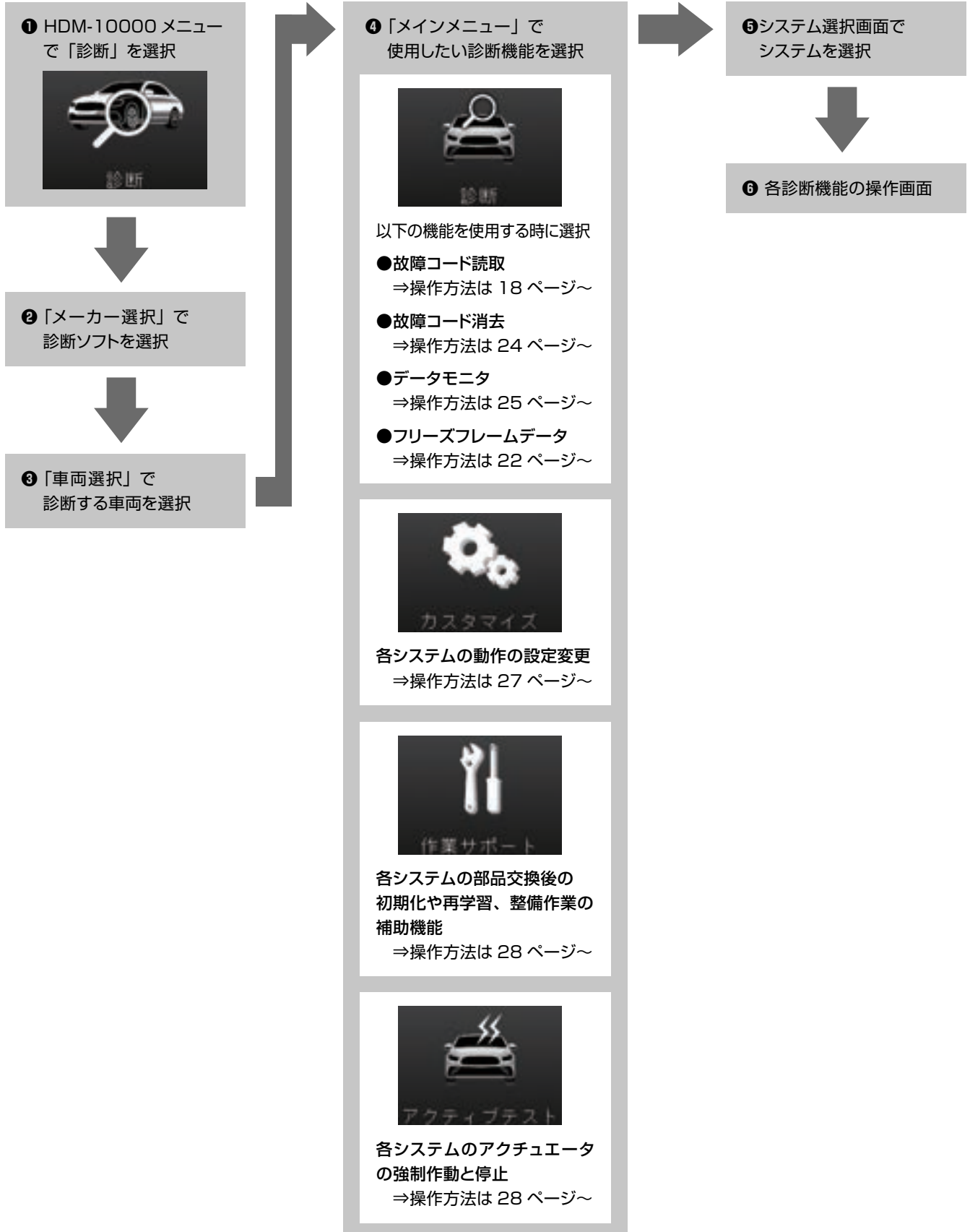
- ⑤ パソコンのタスクバーに表示されている USB のアイコンをクリックして「ハードウェアの安全な取り外し」を実行し、HDM-10000 をパソコンから取り外してください。

診断機能の操作

1. 操作画面の基本的な流れ

HDM-10000は下図の様な操作画面のフローとなります。

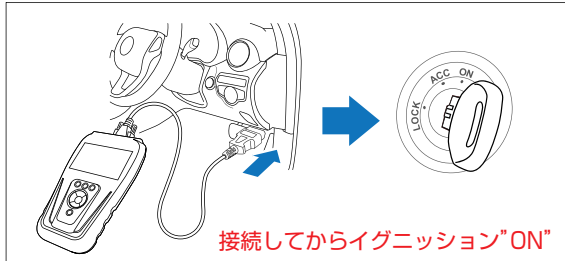
まず使用したい診断機能を選択した後、診断したいシステムの選択、それぞれの診断機能の操作画面の順番に進みます。



診断機能の操作

2. 車両への接続と HDM-10000 の起動

- ① HDM-10000本体の DB15ポートに OBDIIケーブルのコネクターを差し込み、ネジで固定してください。
- ② イグニッションキーが OFF の状態で車両側 DLC コネクターに HDM-10000を接続してください。



1999年～2006年のいすゞ車のエルフ(OEM車のアトラス、コンドル、タイタン含む)で、DLCコネクターに電源端子が無い車両では、本体キット付属のシガー電源ケーブルをHDM-10000に接続してください。

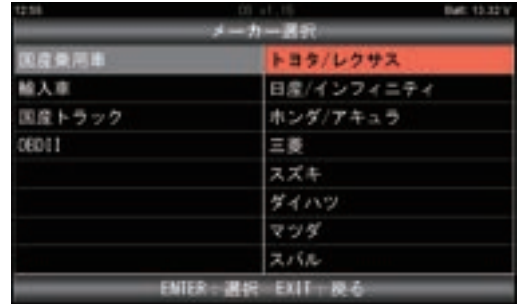
- ③ HDM-10000が起動します。診断を選択してENTERキーを押してください。



※ 以下からはトヨタソフトを例にとって操作方法を説明します。

3. 診断ソフトの選択からメインメニューの表示まで

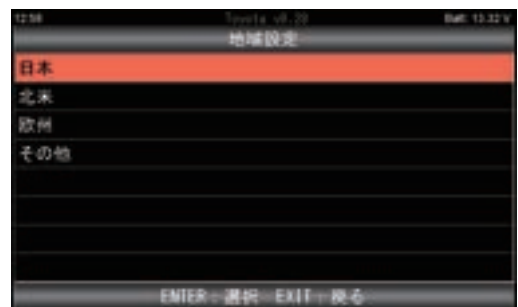
- ① メーカー選択画面が表示されます。矢印キーでカーソルをメーカー名に移動させて、ENTERキーを押してください。



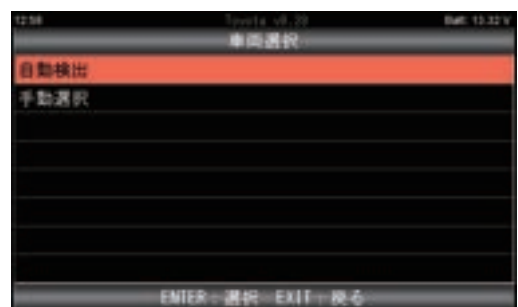
- ② 診断ソフトが起動し、③の画面に移ります。



- ③ 地域設定画面が表示されます。通常は「日本」を選択してください。



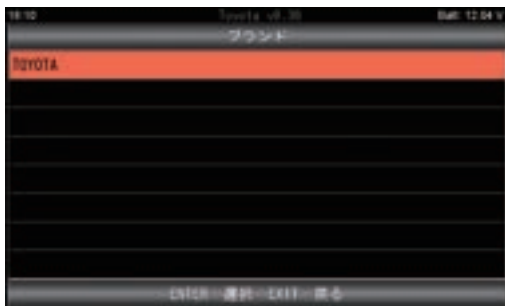
- ④ 自動検出か手動選択かを選択する画面が表示されます。通常は自動検出を選択してください。



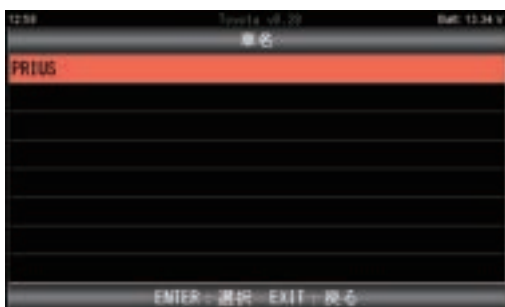
(次ページへ)

診断機能の操作

- ⑤ ブランド選択画面が表示されましたら、適合するブランドを選択してください。



- ⑥ 車名、車型、エンジン型式、オプションの選択画面が表示されましたら、適合する項目を選択してください。



- ⑦ 診断ソフトのメインメニューが表示されます。

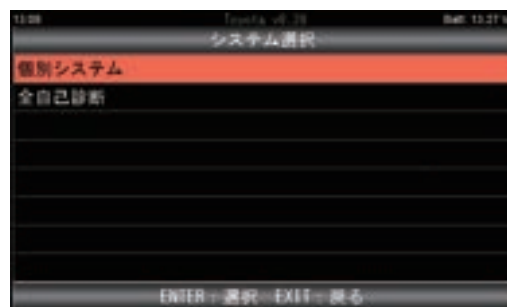


4. 故障コードの読取

- ① 矢印キーでカーソルをメインメニュー内の「診断」に移動させて、ENTER キーを押してください。



- ② システム選択画面が表示されます。



- ③ 矢印キーでカーソルを診断したいシステムに移動させて ENTER キーを押して選択します。それぞれの項目を選択した際の操作方法は以下を参照ください。

Ⓐ 「個別システム」を選択

- 19 ページの「4-1」を参照してください。
- 診断ソフトによっては、この項目の表示が無い場合があります。

Ⓑ 「全自己診断」を選択

- 20 ページの「4-2」を参照してください。



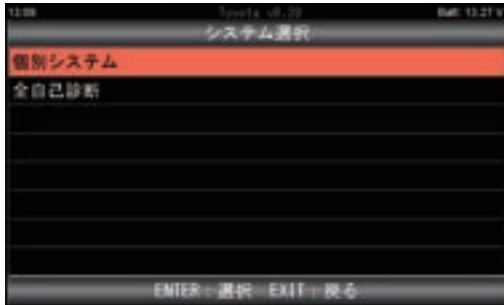
「個別システム」から個別のシステムを選択した方がメインメニューの表示までの時間が「全自己診断」と比べて短くなります。

診断機能の操作

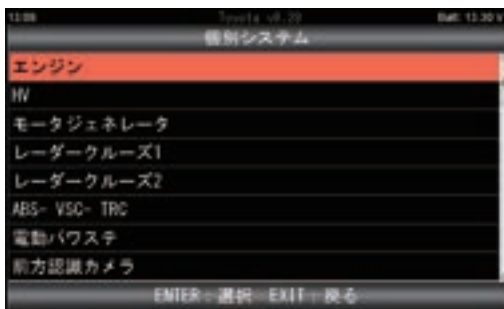
4-1. 「個別システム」を選択した場合

故障コードの読取と消去、もしくはデータモニターを行いたいシステムを一覧から選択する機能です。診断ソフトによっては、この項目が無い場合がございます。

- ① 「個別システム」にカーソルを移動させて ENTER キーを押してください。



- ② 「個別システム」画面が表示されます。診断したいシステムにカーソルを移動させて ENTER キーで選択してください。



- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」の表示の後、上記の②で選択したシステムの診断メニューが表示されます。



- ④ カーソルを「故障コードの読取」に合わせて ENTER キーを押してください。



- ⑤ 故障コードの読取が実行されます。



- ⑥ 内容によって以下⑦～⑧の表示になります。

- ⑦ 故障コードが記憶されていない場合



- ⑧ 現在故障が記憶されている場合
一覧で表示されます。矢印キーでスクロールさせることも可能です。



- ⑨ 過去故障が記憶されている場合
一覧で表示されます。また、現在故障と同時に読取されている場合は現在故障と過去故障の一覧が重ねて表示されますので、矢印キーの左右で表示を切り替えてください。

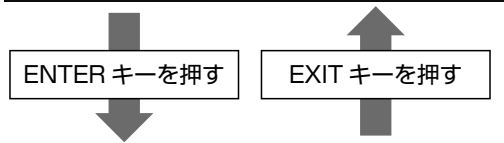


Hint 車両によっては仮コード（本故障と判定される前の故障コード）が表示される場合があります。操作方法は現在故障、過去故障と同様です。

（次ページへ）

診断機能の操作

- ① 現在故障、過去故障ともに、それぞれの故障コードにカーソルを合わせた状態で ENTER キーを押すと、詳細表示に切り替えることが可能です。



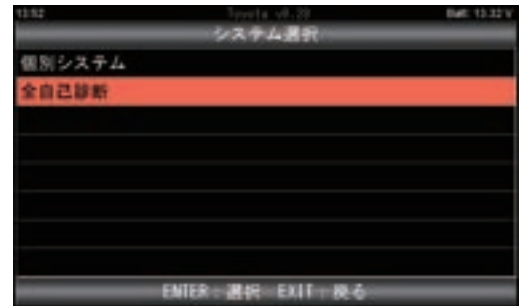
データ保存は 21 ページを参照してください。
DTC ヘルプは 25 ページを参照してください。
印刷は 45 ページを参照してください。

4-2. 「全自己診断」を選択した場合

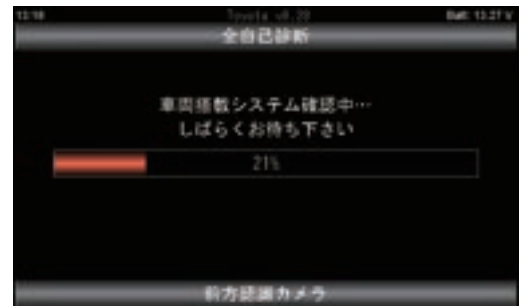
車両に搭載されている全システムの故障コード読取と消去を一括で行う機能です。

また、全自己診断結果からシステムを選択して、個別のシステムの診断メニューを表示させます。

- ① 「システム選択」で「全自己診断」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ② 車両に搭載されている各システムの故障コードの読取を行います。



- ③ 点検結果が画面上部に表示されます。どのシステムに異常が発生しているかを確認する場合は「診断結果」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



(次ページへ)

診断機能の操作

④ 診断結果の一覧が表示されます。

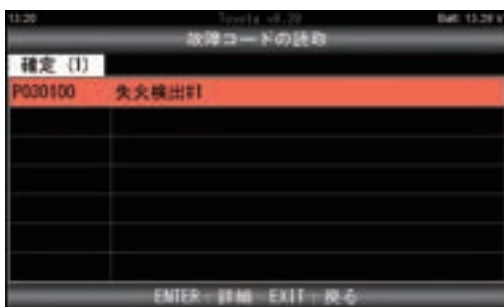
- (a) OK が表示されているシステム
故障コードが記憶されていないことを表します。
- (b) 「数字+DTC」が表示されているシステム
故障コードが記憶されています。故障コードを確認する場合はカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。⇒⑤に進みます。



⑤ 「イニシャライズ中しばらくお待ちください」と表示された後、④の(b)で選択したシステムの診断メニューが表示されます。「故障コードの読取」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



⑥ 「自己診断中」と暫く表示された後、読取した結果が表示されます。その他の操作方法は 19～20 ページの⑥～⑦と同様です。



4-3. 個別のシステムでの故障コードの保存

① 「故障コードの読取」の画面で ENTER キーを押してください。



② 故障コードの詳細の画面が表示されます。画面下部の「データ保存」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



③ データ保存が実行されます。保存の完了後、EXITキーを押すと前の画面に戻ります。



④ 保存データの閲覧方法は 44 ページを参照ください。

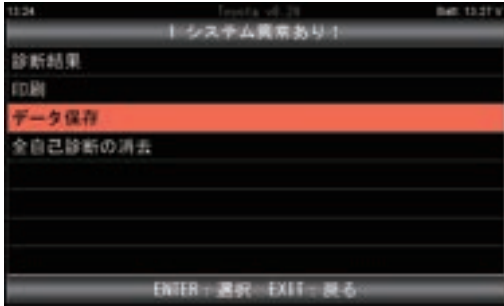


保存されたデータのファイル名は保存を実行した時点でのHDM-10000本体の時計の時刻となります。例えばHDM-10000本体の時計が2024年4月25日の17時33分40秒の時に保存を実行すると、ファイル名は「2024-04-25_17.33.40」となります。保存データの管理上、HDM-10000本体の時計を事前に確認、設定することを推奨します。

診断機能の操作

4-4. 全自己診断での故障コードの保存

- ① 「点検結果」の画面で「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② データ保存が実行されます。
保存の完了後、EXITキーを押すと前の画面に戻ります。



- ③ 保存データの閲覧方法は44ページを参照ください。



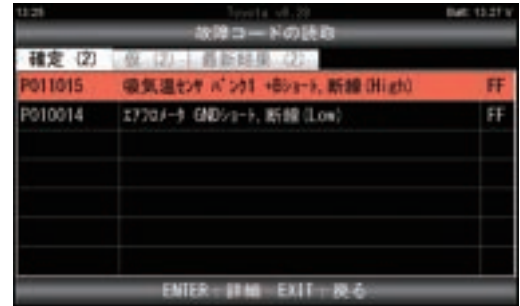
保存されたデータのファイル名は保存を実行した時点でのHDM-10000本体の時計の時刻となります。例えばHDM-10000本体の時計が2024年4月25日の17時33分40秒の時に保存を実行すると、ファイル名は「ALL_2024-04-25_17.33.40」となります。保存データの管理上、HDM-10000本体の時計を事前に確認、設定することを推奨します。また、DiagPrintout-2による愛車診断レポート、作業サポートレポートの作成の際、全自己診断結果を使用しますので、データ保存実行時はファイル名をメモなどで控えておくことを推奨します。

5. フリーズフレーム

フリーズフレームを確認する場合は、次の5-1、5-2のいずれかの操作を行ってください。

5-1. 「故障コードの読取」画面からの確認

- ① 「故障コードの読取画面」で右端にFFが表示されている故障コードにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 詳細画面が表示されます。
カーソルを画面下部の「フリーズフレーム」に合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に「表示項目選択」が表示されます。画面下部の「開始」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



表示項目の選択は以下を行ってください。

- ① 上下キーで表示したい項目、表示させたい項目にカーソルを合わせてください。
 - ② 左右キーで「選択・解除」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
 - ③ チェック欄にチェックが入った項目が表示され、チェックが外れた項目は非表示となります。
- ※項目全体から表示項目の絞り込みを行う場合は左右キーで「すべて解除」にカーソルを合わせてENTERキーを押してから上記①～③を実行してください。「すべて選択」にカーソルを合わせてENTERキーを押すと全ての項目が選択されます。

(次ページへ)

診断機能の操作

- ④ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「フリーズフレーム・データ」が表示されます。

前の画面に戻る場合はEXITキーを押してください。



- Hint** 表示画面は上下キーでスクロールが可能です。また、液晶画面の下にあるPAGE UP、PAGE DOWNのキーで1画面毎でスクロールさせることが可能です。

- ⑤ 保存をする場合は画面下部の「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- Hint** 複数の故障コードのフリーズフレーム・データを保存する場合は、それぞれの故障コードに対して①～⑤の操作を行ってください。

- ⑥ データ保存が実行されます。EXIT キーを押すと前の画面に戻ります。



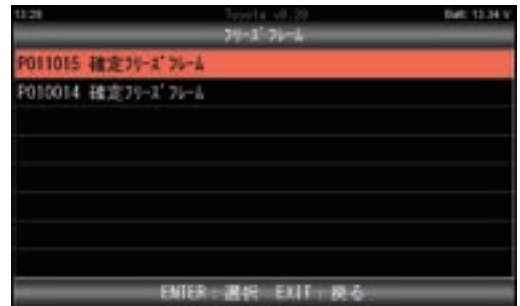
- Hint** 保存されたデータのファイル名は保存を実行した時点でのHDM-10000本体の時計の時刻となります。例えばHDM-10000本体の時計が2024年4月25日の17時33分40秒の時に保存を実行すると、ファイル名は「DataStream_2024-04-25_17.33.40」となります。

5-2. システム毎の診断メニュー画面からの確認

- ① 診断メニュー画面で「フリーズフレーム」のアイコンにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「フリーズフレーム」が表示されます。フリーズフレーム・データを表示させたい故障コードにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「表示項目選択」が表示されます。



- Hint** 表示項目の選択は以下を行ってください。
 - ① 上下キーで表示したい項目、表示させたい項目にカーソルを合わせてください。
 - ② 左右キーで「選択・解除」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
 - ③ チェック欄にチェックが入った項目が表示され、チェックが外れた項目は非表示となります。※項目全体から表示項目の絞り込みを行う場合は左右キーで「すべて解除」にカーソルを合わせてENTERキーを押してから上記①～③を実行してください。「すべて選択」にカーソルを合わせてENTERキーを押すと全ての項目が選択されます。

- ④ その他の操作方法は 22～23 ページの 5-1の③～⑤と同様です。

診断機能の操作

6. 故障コードの消去

故障コードの消去を行う場合は、次の 6-1、6-2 のいずれかの操作を行ってください。

6-1. 個別のシステムでの故障コードの消去

- ① 診断メニュー画面で「故障コードの消去」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 「故障コードの消去」画面が表示されます。消去を実行する場合はENTERキーを押してください。中止の場合はEXITキーを押してください。

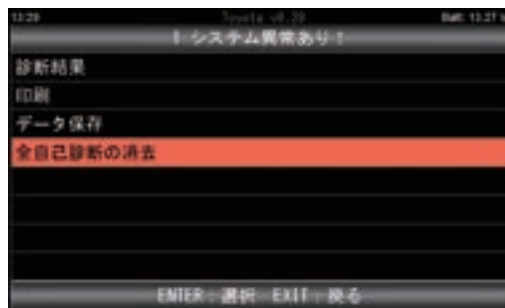


- ③ ENTERキーを押すと「自己診断の消去中」のメッセージが表示された後、「消去完了」の画面が表示されます。



6-2. 全自己診断での故障コードの消去

- ① 「全自己診断」の後に表示される点検結果の画面内の「全自己診断の消去」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 「全自己診断の消去」の画面が表示されます。消去を実行する場合はENTERキーを押してください。



- ③ 各システムの故障コードの消去が実行され、消去が完了すると①の画面に戻ります。

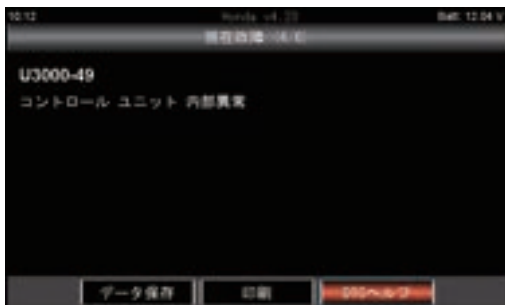


※ 画面上部の「全システム異常なし」は全てのシステムの故障コードの消去が完了できた場合にのみ表示されます。不具合が解消されておらず、消去ができなかった場合は「○システム異常あり!」が表示されます。

診断機能の操作

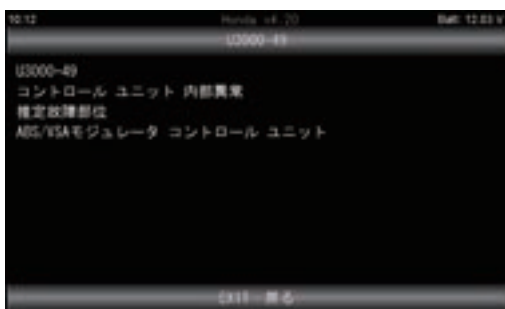
7. DTCヘルプ

故障コードの詳細画面の表示で「DTCヘルプ」の色が反転して表示されている場合は「DTCヘルプ」にカーソルを合わせてENTERキーを押すと、DTCが記憶される検出条件について情報が表示されます。



選択できる場合のみ、次の画面に表示されます

[例] ホンダソフトの例



8. データモニタ

センサーの値やアクチュエータへの指令値などが確認できます。次の 8-1、8-2、8-3 を参照ください。

8-1. データモニタの実行

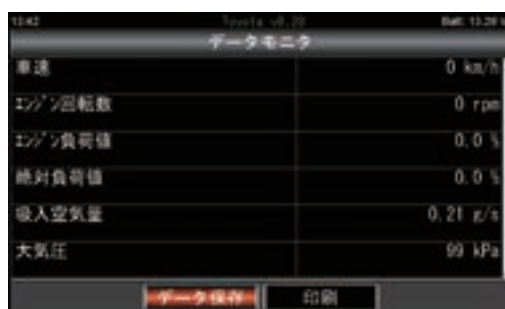
① 個別のシステムの診断メニュー画面の「データモニタ」のアイコンにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



② 表示項目の選択画面が表示されます。状況に応じて表示項目の選択を行い、選択の完了後、画面下部の「開始」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



③ 「表示項目選択」で選択された項目でデータモニタが実行されます。データモニタを中止する場合はEXITキーを押します。



※グラフ表示はグローバルOBDIIソフトのみ対応可能です。

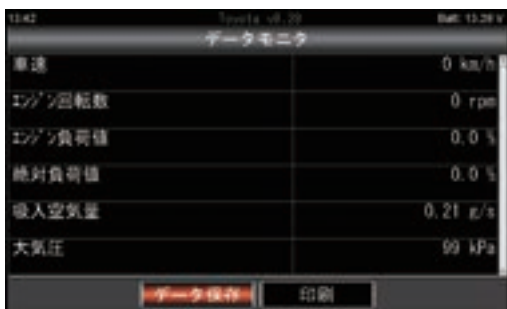


表示画面は上下キーでスクロールが可能です。また、液晶画面の下にあるPAGE UP、PAGE DOWNのキーで1画面毎でスクロールさせることが可能です。

診断機能の操作

8-2. データモニタの保存

- ① データモニタ実行中に「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② データ保存画面に切り替わります。(データ保存の実行中は項目、数値は表示されません)



- ③ データ保存を終了させる場合はENTERキーかEXITキーを押してください。データ保存を実行してから(②の画面から)、ENTERキーかEXITキーを押すまでのデータが保存されます。



- ④ EXITキーを押すとデータモニタの実行画面(①の画面)に戻ります。

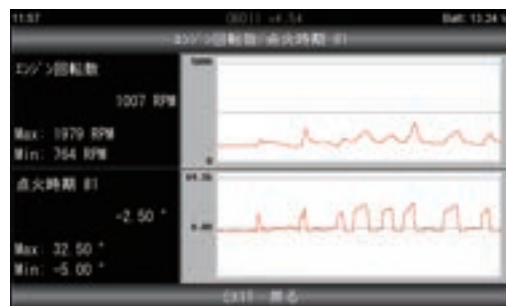


保存されたデータのファイル名は保存を実行した時点でのHDM-10000本体の時計の時刻となります。例えばHDM-10000本体の時計が2024年4月25日の17時33分40秒の時に保存を実行すると、ファイル名は「2024-04-25_17.33.40」となります。

8-3. グラフ表示 (グローバルOBDIIソフトのみ)

グローバルOBDIIソフトでは2項目までのグラフ表示を行うことが可能です。(データ保存は不可)

- ① グローバル OBDIIソフトのメインメニューでデータモニタを選択。
- ② 「リスト表示」「グラフ表示」の選択肢が表示されます。「グラフ表示」を選択してください。
- ③ 表示項目の選択画面で任意の項目を2つ選択してください。
- ④ 画面上の「開始」にカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。
- ⑤ グラフ表示が実行されます。



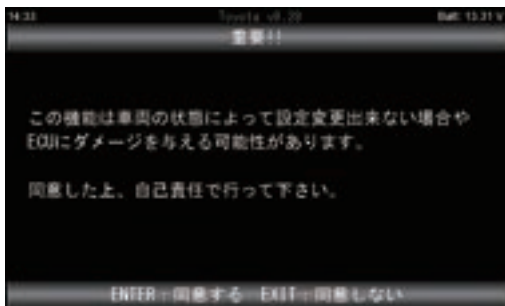
診断機能の操作

9. カスタマイズ

- 1 ソフト毎のメインメニューで「カスタマイズ」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 使用に当たっての注意事項が表示されます。ご確認後、ENTERキーを押してください。



- 3 車両搭載システムの確認が実行された後、システム選択画面が表示されます。カスタマイズを実行したいシステムにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 4 「システム確認中しばらくお待ちください」のメッセージが表示された後、機能一覧画面が表示されます。実行したい機能のカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 5 個別のカスタマイズ機能の実行画面が表示されます。整備解説書を参照のうえ、カスタマイズを行ってください。



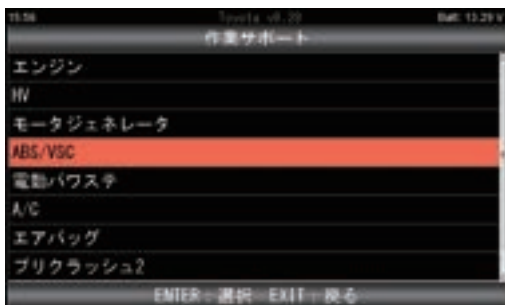
診断機能の操作

10. 作業サポート

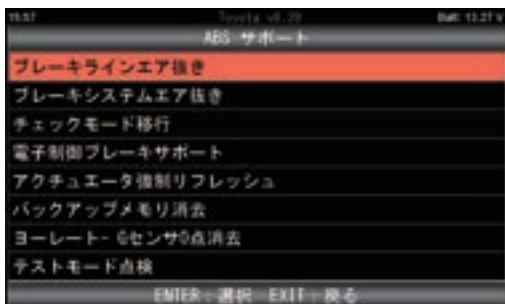
- 1 ソフト毎のメインメニューで「作業サポート」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 システム選択画面が表示されましたら作業サポートを実行したいシステムにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 3 機能一覧画面が表示されます。実行したい機能にカーソルを合わせてENTERキーを押して機能を実行してください。



11. アクティブテスト

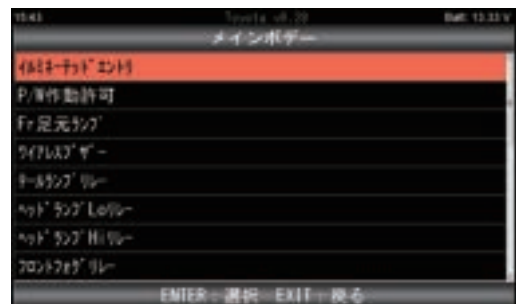
- 1 ソフト毎のメインメニューで「アクティブテスト」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 システム選択画面が表示されましたら、アクティブテストを実行したいシステムにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 3 しばらくシステム確認画面が表示された後、機能一覧画面が表示されます。実行したい機能にカーソルを合わせてENTERキーを押して機能を実行してください。



特殊機能の操作

「特殊機能」は各診断ソフトの作業サポート機能をひとまとめにし、機能選択の手間を省略化したものです。選択するとメンテナンスモード、DPF 再生機能、エーミングモード、簡易バッテリーテスト、J2534 モードの実行が可能です。

1. メニューのアイコンについて

それぞれのアイコンをカーソルで選択し、ENTERキーを押すと各機能の実行が可能です。

	① メンテナンスモード ブレーキのエア抜き、整備モード等の作業サポート機能をひとまとめにしております。
	② DPF 日野、いすゞ、三菱ふそう、UDトラックのDPF再生に関連する機能をひとまとめにしております。
	③ エーミング エーミングに関連する機能をひとまとめにしております。
	④ 簡易バッテリーテスト 車両側DLCコネクタのバッテリー端子の電圧からバッテリーの簡易点検を行います。
	⑤ J2534 モード HDM-10000 本体を検査用スキャンツールの VCI に切り替えます。31～39ページを参照ください。

2. 簡易バッテリーテスト

本機能は12V バッテリーと充電系統の簡易点検が可能です。(HV 車、FCV 車、24V 車は対象外)

尚、本機能は端子電圧のみで判定を行うため、最終的な良否判定はCCA値等の測定が可能なバッテリーチェッカーによる点検や整備解説書に記載されている点検要領のもと、行ってください。

- ① 車両側のIGキーをオンにします。
- ② 「簡易バッテリーテスト」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 車両の状態を確認する画面が表示されます。車両が表示の状態になっていることを確認後、ENTERキーを押します。



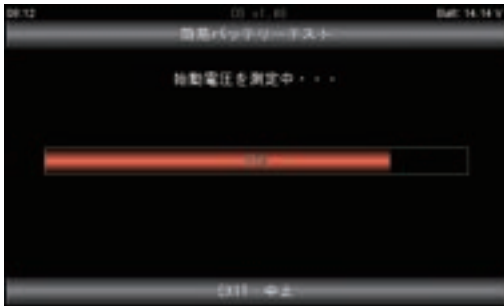
- ④ 始動前のバッテリー電圧とメッセージが表示されましたらエンジンを始動してください。



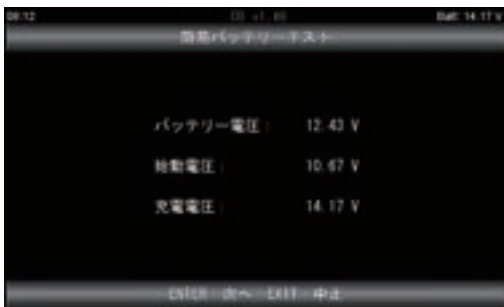
(次ページへ)

特殊機能の操作

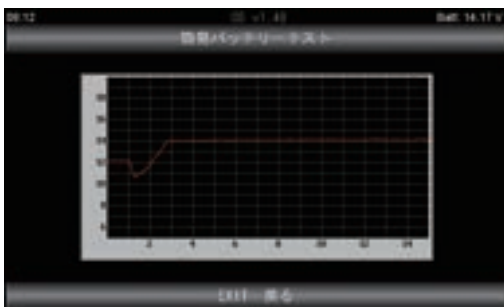
- ⑤ 始動時のバッテリー電圧と充電電圧の計測が開始されます。



- ⑥ 計測されたバッテリー電圧(始動前)、始動電圧(始動時) 充電電圧(始動後)が表示されます。 ENTERキーを押してください。



- ⑦ 計測した電圧値のグラフが表示されます。 EXIT キーを押してください。



- ⑧ 点検結果が表示されます。



J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

目次

使用状況別の参照先	31
1.J2534モードについて	32
2.HDM-10000とPCで構成される検査用スキャンツールを使用するに当たっての準備	32
3.特定DTC照会アプリのインストール、操作方法について	32
4.HDM-10000の対応通信プロトコル	32
5.初期設定:ユーティリティソフトのインストール	33
6.J2534モードの起動	34
7.PCとの接続設定	35
7-1.USBケーブルでPCと接続する場合	35
7-2.BluetoothでPCと接続する場合	36
8.特定DTC照会アプリとの接続設定	38
9.OBD検査またはOBD確認の実行	38
10.検査完了後のHDM-10000の操作	39
10-1.整備用スキャンツールに戻す場合	39
10-2.VCIの状態で保管する場合	39
11.初期設定完了後の操作について	39
①OBD検査またはOBD確認を行う場合	39
②PCとHDM-10000本体の接続方法の変更	39
12.その他の設定方法	39
①別のシリアルNoのHDM-10000本体をPCと接続する場合	39
②別のPCにHDM-10000本体を接続する場合	39

使用状況別の参照先

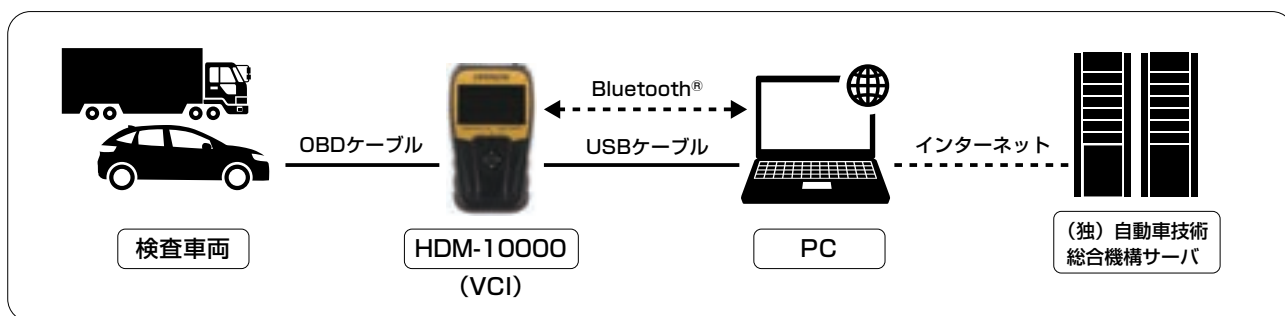
- ①HDM-10000を購入後、初めてPCに接続してVCIとして使用する場合
33ページ「5.初期設定:ユーティリティソフトのインストール」以降を参照してください。
- ②HDM-10000のファームウェアバージョン、ドライバーバージョンを確認する場合
34ページの「6.J2534モードの起動」を行い、その後、35ページの「7-1.USBケーブルでPCと接続する場合」か、36ページの「7-2.BluetoothでPCと接続する場合」を参照してください。
※:2024年4月現在、ファームウェアバージョンは1.84、ドライバーバージョンは1.08です。
- ③HDM-10000をVCIとして起動する場合
34ページの「6.J2534モードの起動」を参照してください。
- ④HDM-10000を整備用スキャンツールに戻す場合
39ページの「10-1.整備用スキャンツールに戻す場合」を参照してください。
- ⑤HDM-10000本体とPCとの接続方法を変更する場合
39ページの「11.初期設定完了後の操作について」を参照してください。
- ⑥初期設定が完了した後の2回目以降の操作を行う場合
39ページの「11.初期設定完了後の操作について」を参照してください。
- ⑦別のシリアルNoのHDM-10000本体をPCに接続する、または別のPCにHDM-10000本体を接続する場合
39ページの「12.その他の設定方法」の①②を参照してください。

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

1. J2534 モードについて

- HDM-10000の「J2534モード」は、下図の様に検査用スキャンツールのVCI(特定DTC照会アプリがインストールされたPCと車両をつなぐ機器)としてHDM-10000を起動させるモードです。34ページの「6. J2534モードの起動」に記載された操作方法で起動します。
- HDM-10000本体とPCとの接続はBluetoothまたは付属のUSBケーブルによる接続が可能です。
- 検査用スキャンツールのVCIとして初めてHDM-10000をPCに接続して使用する際は、33ページの「5. 初期設定:ユーティリティソフトのインストール」以降の操作を行ってから使用してください。

【HDM-10000による検査用スキャンツールの構成イメージ】



2. HDM-10000 と PC で構成される検査用スキャンツールを使用するに当たっての準備

- HDM-10000は検査用スキャンツールのVCIに当たるため、特定DTC照会アプリはインストールされていません。
- 下表の要求仕様を満たし、かつインターネット環境に接続されたPCを点検作業場、または完成検査場に設置し、特定DTC照会アプリをインストールした後、「J2534モード」を起動したHDM-10000をPCに接続してください。

【PCの要求仕様】

CPU	1GHz 以上
メモリー	2GB 以上
ディスク	Cドライブ空き容量 1GB 以上
OS	Microsoft Windows 10、11 (Home または Pro、リビジョン 2004 以降)
ソフトウェア	.NET Framework 4.6.2 以上 Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージ (2017 以上) 32bit 版

3. 特定 DTC 照会アプリのインストール、操作方法について

特定DTC照会アプリのインストール方法や操作手順等は下記サイトに掲載された取扱説明書を参照ください。

【OBD検査ポータル】 <https://www.obd.naltec.go.jp/mainte/manual>

4. HDM-10000 の対応通信プロトコル

下記の通信プロトコルに対応します。

- ISO14229
- ISO14230
- SAEJ1979
- ISO13400
- ISO15765
- ISO15031-5
- ISO9141

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

5. 初期設定：ユーティリティソフトのインストール

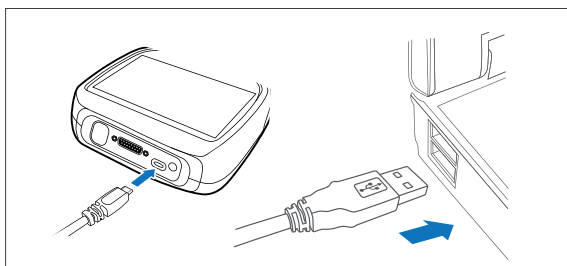
特定 DTC 照会アプリがインストールされた PC にはじめて HDM-10000 を接続する際は本操作で PC にユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」のインストールを行ってください。



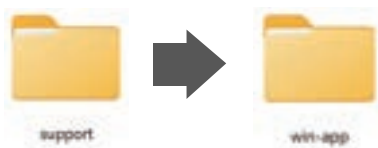
既にPCにHDM-9000のユーティリティソフト(名称はHITACHI J2534 Utility/デスクトップ上に赤丸のアイコンを表示)がインストールされている場合はHDM-9000のユーティリティソフトをアンインストールを行ってください。

また、再度、HDM-9000をPCに接続して検査用スキャンツールのVCIとして使用する場合はHDM-10000のユーティリティソフトをアンインストールしてから、HDM-9000のユーティリティソフトのインストールを行う必要があります。

- 1 HDM-10000 本体を付属の USB ケーブルで PC と接続してください。HDM-10000 が起動します。



- 2 HDM-10000 のフォルダーが PC の画面に表示されます。
- 3 HDM-10000 のフォルダー内にある「support」フォルダーをクリックして、次に「win-app」のフォルダーをクリックしてください。



- 4 「j2534-util」のフォルダーをクリックして、次に「setup.exe」をクリックしてください。



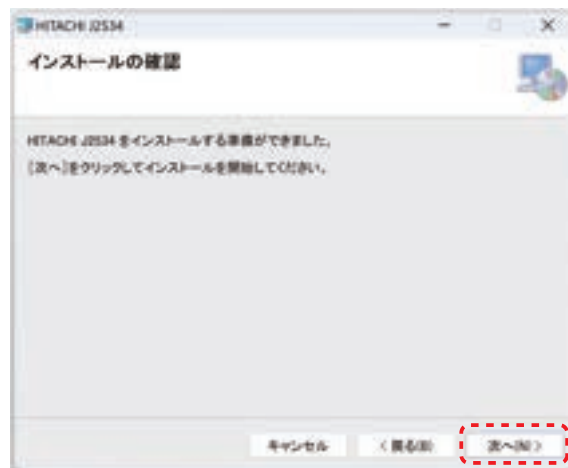
- 5 「HITACHI J2534 セットアップ ウィザードへようこそ」のダイアログが表示されます。「次へ」をクリックしてください。



- 6 「インストールフォルダーの選択」のダイアログが表示されます。「次へ」をクリックしてください。
※ インストール先を変更する場合は「参照」をクリックして別のフォルダーを選択してください。



- 7 「インストールの確認」が表示されましたら「次へ」をクリックしてください。



- 8 「この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」が表示されましたら「はい」をクリックしてください。インストールが開始されます。

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

- ⑨ 「インストールが完了しました」が表示されましたら、「閉じる」をクリックしてください。



- ⑩ 「j2534-util」のフォルダーを閉じてください。

- ⑪ PC のデスクトップ画面に「HITACHI J2534 Utility」のアイコンが表示されていることを確認してください。

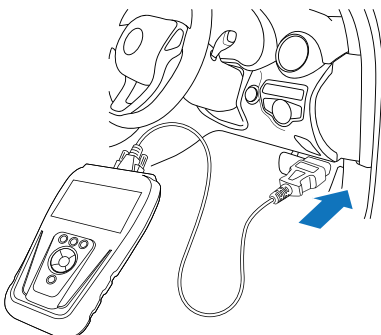


- ⑫ タスクバーを操作して「ハードウェアの安全な取り外し」を実行してください。
- ⑬ 「OBDII SCAN TOOL の取り出し」をクリックして、PC と HDM-10000 から USB ケーブルを取り外して、次の「6.J2534 モードの起動」を行ってください。

6.J2534 モードの起動

本操作で HDM-10000 を整備用スキャンツールから検査用スキャンツール (VCI) に切り替えてください。

- ① HDM-10000本体にOBDIIケーブルを接続し、車両側のDLCコネクタにHDM-10000を接続してください。HDM-10000が起動し、HDM-10000メニューが表示されます。



- ② HDM-10000 本体の上下左右キーで画面上の赤いカーソルを「特殊機能」に移動させて HDM-10000 本体の ENTER キーを押してください。



- ③ 特殊機能メニューが表示されましたら HDM-10000 本体の上下左右キーで画面上の赤いカーソルを「J2534 モード」のアイコンに移動させて ENTER キーを押してください。



- ④ 「しばらくお待ちください」⇒「J2534 が起動しています」の表示⇒「J2534 v1.84 準備完了！」に画面の表示が変わります。



- ⑤ 行いたい操作に応じて以下の(a)~(d)いずれかを行ってください。

- (a) USB ケーブル、または Bluetooth での PC と HDM-10000 の接続を設定する場合は 35 ページの「7.PC との接続設定」を行ってください。
- (b) 既にも上記の(a)が完了している場合は 38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」へ進みます。
- (c) 既にも上記(a) (b)が完了している場合は 38 ページの「9.OBD 検査または OBD 確認の実行」に進みます。
- (d) 整備用スキャンツールの状態に戻りたい場合は HDM-10000 本体の EXIT キーを押します。



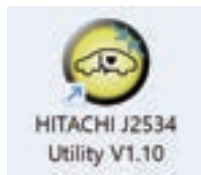
J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

7.PC との接続設定

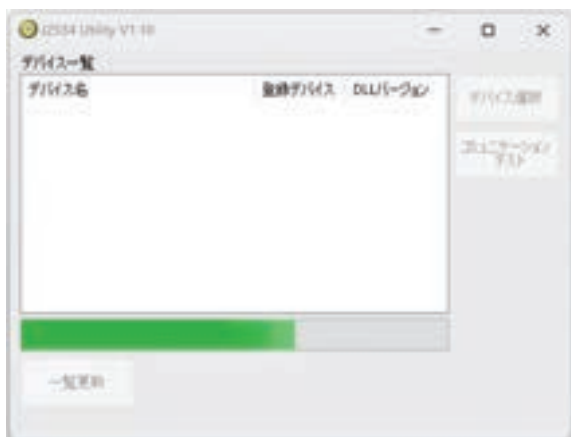
既にユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」をインストールしている PC に初めて HDM-10000 本体を接続する場合、以下の「7-1 .USB ケーブルで PC と接続する場合」、または「7-2.Bluetooth で PC と接続する場合」のいずれかを行ってください。

7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合

- ① OBDIIケーブルで車両側の DLC コネクタと HDM-10000 を接続し、34 ページの「6.J2534 モードの起動」の手順で「J2534 モード」を起動してください。
- ② HDM-10000 本体をキット付属の USB ケーブルで PC と接続してください。
- ③ PC の画面に「デバイスのセットアップ OBDII SCAN TOOL をセットアップしています」と表示がされ、「デバイスの準備ができました」に切り替わります。
※ この表示は「J2534 モード」が起動している HDM-10000 を初めて Windows10 の PC に接続した時に表示されます。
- ④ PC のデスクトップ画面に表示されている「HITACHI J2534 Utility」のアイコンをクリックしてください。



- ⑤ 「この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」が表示されましたら「はい」をクリックしてください。
- ⑥ ユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」のダイアログが起動し、PC と接続している HDM-10000 本体 (デバイス) の検索が始まります。



- ⑦ 「デバイス一覧」内の「デバイス名」に表示されている HDM-10000 本体のシリアル No と同一の「HDM-10000_06-6 桁の数字 (USB)」をクリックしてください。



HDM-10000 本体のシリアル No は本体裏面のスタンド裏に貼り付けられたシールに記載された「06-6 桁の数字」です。



シールの貼り付け位置とシリアル No の記載例



「HDM-10000_06-6 桁の数字 (USB)」がユーティリティソフト内に表示されない時は下記 (a)~(e)の操作を行ってください。

- (a) ユーティリティソフトを閉じてください。
- (b) PC と HDM-10000 本体から USB ケーブルを取り外してください。
- (c) HDM-10000 本体の EXIT キーを押して HDM-10000 メニューを表示させてください。
- (d) 車両側の DLC コネクタから HDM-10000 本体を取り外してください。
- (e) 再度、「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」の①以降の操作を行ってください。

※ (e)まで実行して表示されない場合は再度、(a)から操作を行ってください。

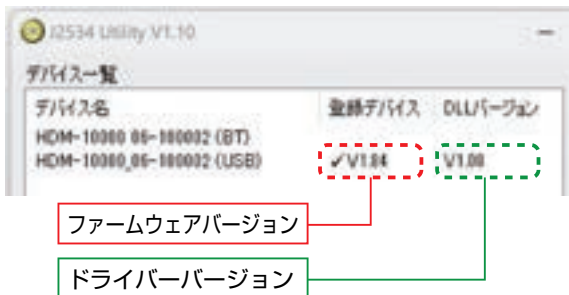
(次ページへ)

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

- ⑧ 「デバイス一覧」の右側にある「デバイス選択」の色が反転します。「デバイス選択」をクリックしてください。



- ⑨ 数十秒後、「デバイス一覧」の「登録デバイス」に「✓」と現在のファームウェアのバージョンが表示され、「DLLバージョン」に現在のドライバのバージョンが表示されます。



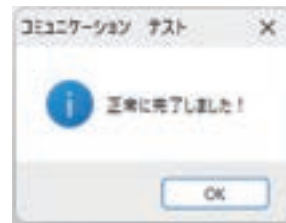
- ⑩ また、上記⑨を実行すると HDM-10000 の画面が「REMOTE CONTROL ACTIVE」の表示に切り替わります。



- ⑪ 再度、「デバイス一覧」内の「デバイス名」に表示されている HDM-10000 本体の「シリアル No (USB)」をクリックしてください。
- ⑫ 「デバイス選択」の下の「コミュニケーションテスト」の色が反転したら「コミュニケーションテスト」をクリックしてください。



- ⑬ 数秒後、PC の画面に「正常に完了しました」と表示されましたら、ダイアログ内の「OK」をクリックしてください。



- ⑭ ユーティリティソフト「J2534 Utility」を閉じてください。
- ⑮ 38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」を行ってください。



USBケーブルによる接続からBluetooth接続に切り替える際、画面上に「REMOTE CONTROL ACTIVE」が表示されている場合はHDM-10000本体のリセットキー(位置は5ページ参照)を押して「J2534 v1.84準備完了!」が表示されることを確認した後、USBケーブルを取り外した状態で「7-2. BluetoothでPCと接続する場合」を行ってください。

7-2. Bluetooth で PC と接続する場合

- ① OBDIIケーブルで車両側の DLC コネクタと HDM-10000 を接続し、34 ページの「6. J2534 モードの起動」の手順で「J2534 モード」を起動してください。(HDM-10000 本体と PC から USB ケーブルを取り外してください。)
- ② PC のデスクトップ画面に表示されている「HITACHI J2534 Utility」のアイコンをクリックしてください。
- ③ 「この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」が表示されましたら「はい」をクリックしてください。
- ④ ユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」のダイアログが起動し、PC と接続している HDM-10000 本体 (デバイス) の検索が始まります。



(次ページへ)

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

- ⑤ 「デバイス一覧」内の「デバイス名」に表示されている HDM-10000 本体のシリアル No と同一の「HDM-10000_06-6桁の数字 (BT)」をクリックしてください。



- Hint** HDM-10000 本体のシリアル No は本体裏面のスタンド裏に貼り付けられたシールに記載された「06-6桁の数字」です。



シールの貼り付け位置とシリアル No の記載例

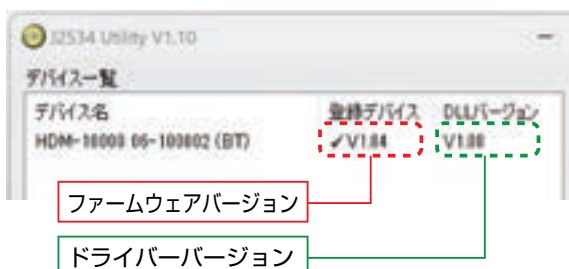
- Hint** 外部コンポーネントが例外をスローしました」のメッセージが表示されましたらメッセージ内の「終了」をクリックし、再度、36 ページの②を実行してください。

- Hint** PC 上に Bluetooth 接続の実行を確認するメッセージが表示された場合は表示にしたがって接続の操作を行ってください。
また、「HDM-10000_06-6桁の数字 (BT)」が表示されない場合は PC の設定メニューで PC と HDM-10000 が Bluetooth によるペアリングがされているか確認してください。

- ⑥ 「デバイス一覧」の右側にある「デバイス選択」の色が反転します。「デバイス選択」をクリックしてください。



- ⑦ 数十秒後、「デバイス一覧」の「登録デバイス」に「✓」と現在のファームウェアのバージョンが表示され、「DLL バージョン」に現在のドライバのバージョンが表示されます。



- ⑧ また、⑦を実行すると HDM-10000 の画面が「REMOTE CONTROL ACTIVE」の表示に切り替わります。

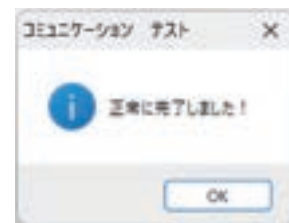


- ⑨ 再度、「デバイス一覧」内の「デバイス名」に表示されている HDM-10000 本体の「HDM-10000_06-6桁の数字 (BT)」をクリックしてください。

- ⑩ 「デバイス選択」の下の「コミュニケーションテスト」の色が反転したら「コミュニケーションテスト」をクリックしてください。



- ⑪ 数秒後、PC の画面に「正常に完了しました」と表示されましたら、ダイアログ内の「OK」をクリックしてください。



- ⑫ 「HITACHI J2534 Utility」を閉じてください。

- ⑬ 38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」に進みます。

- Hint** Bluetoothによる接続からUSBケーブルによる接続へ切り替える際、画面上に「REMOTE CONTROL ACTIVE」が表示されている場合はHDM-10000本体のリセットキー（位置は5ページ参照）を押して「J2534 v1.84準備完了!」が表示されることを確認した後、EXITキーを押してHDM-10000メニューを表示させから、一旦、HDM-10000を車両から取り外してください。その後、「7-1.USBケーブルでPCと接続する場合」を行ってください。

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定

接続設定の概略は下記①～④の通りです。詳細につきましてはウェブサイト「OBD 検査ポータル」に掲載されている特定 DTC 照会アプリの取扱説明書をご参照ください。
⇒特定 DTC 照会アプリ説明書掲載先 URL:

<https://www.obd.naltec.go.jp/mainte/manual>

- ① PC 側の特定 DTC 照会アプリを起動し、メニュー画面の「設定」をクリックしてください。
- ② 下記の(a)(b)のいずれかを行ってください。
 - (a) 35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」を行っている場合は「検査用スキャンツール」の「機器の選択」で「HDM-10000 06-6 桁の数字 (USB)」を選択してください。
 - (b) 36 ページの「7-2.Bluetooth で PC と接続する場合」を行っている場合は「検査用スキャンツール」の「機器の選択」で「HDM-10000 06-6 桁の数字 (BT)」を選択してください。
- ③ 特定 DTC 照会アプリの画面内の青い設定ボタンをクリックして接続完了です。
- ④ 右記の「9.OBD 検査または OBD 確認の実行」に進みます。



上記の②の(b)で特定 DTC 照会アプリの設定画面に「HDM-10000 06-6 桁の数字 (BT)」が表示されない時は下記(a) (b)の操作を行ってください。

- (a) 35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」の操作を行ってください。
※ HDM-10000 が「REMOTE CONTROL ACTIVE」を表示している場合は HDM-10000 本体上部のリセットキーを押して「J2534 v1.84 準備完了!」を表示させたあと、EXIT キーを押して HDM-10000 メインメニューを表示させて、車両から HDM-10000 を取り外し、35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」の操作を行ってください。
- (b) USB ケーブルを取り外して、HDM-10000 本体上部のリセットキーを押してから 36 ページの「7-2.Bluetooth で PC と接続する場合」を行ってください。

9.OBD 検査または OBD 確認の実行

既に 33 ～ 37 ページの設定が完了し、「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」が完了している場合は、下記①～④の操作を行ってください。

- ① PC がインターネットに接続されているか確認してください。
- ② HDM-10000 本体と車両側 DLC コネクタが OBDII ケーブルで接続されているか確認してください。



35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」の設定をされている場合は、HDM-10000 本体と PC が USB ケーブルで接続されているか確認してください。

- ③ HDM-10000 の画面が「REMOTE CONTROL ACTIVE」か「J2534v1.84 準備完了!」と表示されているか確認してください。



HDM-10000 の画面が HDM-10000 メニューを表示している場合は、34 ページの「6.J2534 モードの起動」を行ってください。

- ④ PC 側の特定 DTC 照会アプリを起動して「OBD 検査」か「OBD 確認」を実行してください。
- ⑤ 車両情報の入力、検査要否確認を行い、特定 DTC 照会アプリの「実行」をクリックしてください。
- ⑥ 特定 DTC 照会アプリの上部の表示が「検査用スキャンツール接続中」から「ECU と通信中」に切り替わります。



HDM-10000 本体から内部リレーの作動音が発生します。また、「J2534v1.84 準備完了!」と表示されている場合は「REMOTE CONTROL ACTIVE」へ表示が切り替わります。

- ⑦ 特定 DTC 照会アプリの画面上に「適合」「不適合」のいずれかの結果が表示されれば「OBD 検査」または「OBD 確認」は完了です。
- ⑧ 引き続き「OBD 検査」「OBD 確認」を別の車両で実行する場合、HDM-10000 の画面上の表示が「REMOTE CONTROL ACTIVE」となっていることを確認し、HDM-10000 の OBDIIケーブルを別の車両の DLC コネクタに接続後、特定 DTC 照会アプリの「次の車両」をクリックして上記⑥以降の操作を行ってください。
- ⑨ 「OBD 検査」「OBD 確認」を終了する場合は次ページの「10. 検査完了後の HDM-10000 の操作」に進みます。

J2534モード/検査用スキャンツールとして使用する際の初期設定と操作

10. 検査完了後の HDM-10000 の操作

PC の特定 DTC 照会アプリの上部に表示されている「ログアウト」をクリックし、特定 DTC 照会アプリを終了させましたら、ご利用の状況に応じて以下のいずれかの操作を行ってください。

10-1. 整備用スキャンツールに戻す場合

- ① HDM-10000 本体に USB ケーブルが接続されている場合は USB ケーブルを取り外してください。
- ② HDM-10000 本体の上部にあるリセットキーを押してください。



- ③ HDM-10000 が再起動し「J2534v1.84 準備完了！」が表示されましたら HDM-10000 本体の EXIT キーを押してください。
- ④ 「アプリケーションを終了しています」が表示され、HDM-10000 が再起動します。
- ⑤ 再起動後、HDM-10000 メニューが表示されますので整備用スキャンツールとして使用できる状態となります。
- ⑥ また、この状態で車両の DLC コネクタから OBDII ケーブルを外すと整備用スキャンツールの状態が維持され、次回、車両接続時は整備用スキャンツールの状態で起動します。



HDM-10000 本体と PC を付属の USB ケーブルで接続して、再度、検査用スキャンツールの VCI として使用する際は、35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」を行ってください。

10-2. VCI の状態で保管する場合

- ① PC と HDM-10000 本体が USB ケーブルで接続されている場合は USB ケーブルを取り外してください。
- ② OBDII ケーブルを車両側の DLC コネクタから取り外し、付属のキャリングケースに保管してください。
- ③ VCI の状態が維持され、次回、車両接続時は「J2534 v1.84 準備完了！」と表示され検査用スキャンツールの VCI として起動します。

11. 初期設定完了後の操作について

33 ページの「5. 初期設定：ユーティリティソフトのインストール」から 38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」による初期設定が完了している場合、状況に応じて下記のいずれかの操作を行ってください。

- ① OBD 検査または OBD 確認を行う場合
34 ページの「6.J2534 モードの起動」を行ったあと、38 ページの「9.OBD 検査または OBD 確認の実行」を行います。
- ② PC と HDM-10000 の接続方法を変更する場合
35 ページの「7-1.USB ケーブルで PC と接続する場合」か 36 ページの「7-2.Bluetooth で PC と接続する場合」のいずれかを行ってください。「J2534 v1.84 準備完了！」と表示され検査用スキャンツールの VCI として起動します。

12. その他の設定方法

33 ページの「5. 初期設定：ユーティリティソフトのインストール」から 38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」による初期設定が完了している場合、状況に応じて下記のいずれかの操作を行ってください。

- ① 別のシリアル No の HDM-10000 本体を PC と接続する場合
既にユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」がインストールされている PC に別のシリアル No の HDM-10000 本体を接続する場合は 35 ページの「7.PC との接続設定」、38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」を行ってください。
- ② 別の PC に HDM-10000 本体を接続する場合
特定 DTC 照会アプリがインストールされている PC で、かつ、ユーティリティソフト「HITACHI J2534 Utility」がインストールされていない場合は 33 ページの「5. 初期設定：ユーティリティソフトのインストール」以降の操作を行ってください。「HITACHI J2534 Utility」がインストールされている場合は 35 ページの「7.PC との接続設定」、38 ページの「8. 特定 DTC 照会アプリとの接続設定」を行ってください。

表示画面のスクリーンショット

HDM-10000 はスクリーンショット機能を使用することで、表示画面のスクリーンショット（ビットマップ形式で HDM-10000 本体に保存）が可能です。スクリーンショットされた表示画面を Windows10 以上の PC での再表示や、ワードやエクセルに貼り付けることが可能です。

※表示画面によってはスクリーンショットが実行できない場合があります。

1. スクリーンショットの実行

- 1 スクリーンショットを行いたい画面が表示されているとき、HDM-10000 本体のファンクションキーの内、中央のスクリーンショットのキーを押してください。



- 2 表示画面が一時的に白く反転し、スクリーンショットが実行されます。
- 3 スクリーンショットされた表示画面は HDM-10000 本体内に保存されます。



スクリーンショットされた画像のファイル名はスクリーンショットを実行した時点での HDM-10000 本体の内部時計の時刻となります。例えば HDM-10000 本体の内部時計が 2024 年 4 月 25 日の 17 時 33 分 40 秒の時にスクリーンショットを実行すると、ファイル名は「ss_2024-04-25_17.33.40」となります。



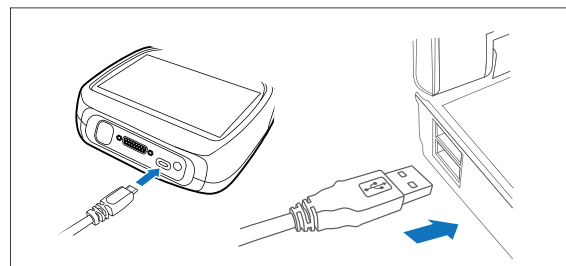
スクリーンショットされた画像のファイル名は時刻となるため、画像の管理上、スクリーンショットを実行するときは予め HDM-10000 本体内の内部時計の事前確認と設定を行うようにしてください。
(8 ページの「8. 時計の設定」を参照ください)



保存できる件数は HDM-10000 本体内の保存領域の空き容量によります。また、アップデートされた診断ソフトの保存領域を確保するため、適宜、スクリーンショットのデータは削除、または PC への移動を行ってください。

2. スクリーンショットされた表示画面の再生

- 1 HDM-10000 本体を付属の USB ケーブルで PC と接続してください。HDM-10000 が起動します。



- 2 HDM-10000 のフォルダーが PC の画面上に表示されます。



フォルダーの自動再生が実行されない場合は、パソコンの画面下部に表示されているタスクバーの「エクスプローラ」をクリックしてください。その後、「HDM-10000」をクリックして、フォルダーを表示させてください。

- 3 HDM-10000 のフォルダー内の「Screenshots」のフォルダーをクリックしてください。
- 4 「OS」「UnregVehicle」「RegVehicle」のフォルダーが表示されます。下記を参照のうえ、それぞれをクリックしてください。(フォルダーの表示数はスクリーンショットの保存状況により変わります。)

●「OS」のフォルダー

HDM-10000 本体側の機能のスクリーンショットが保存されています。

●「UnregVehicle」のフォルダー

車両登録なしで行ったスクリーンショットが保存されています。⑤に進みます。

●「RegVehicle」のフォルダー

登録済の車両情報に紐づけられたスクリーンショットが保存されています。

再生したいスクリーンショットが保存されているカーメーカー別フォルダーをクリックし、次に車両情報名（ナンバープレート）のフォルダーをクリックしたあと⑥に進みます。

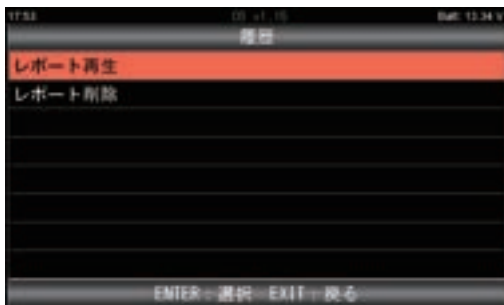
- 5 カーメーカー別フォルダーが表示されます。再生したいスクリーンショットが保存されているカーメーカーのフォルダーを開いてください。
- 6 スクリーンショットされた画像の一覧が表示されます。PC 上で再生したいスクリーンショットのファイル名をクリックしてください。
- 7 ビットマップ形式でスクリーンショット画像が表示されます。PC を操作して、ファイル名の変更やエクセル、ワードへの貼り付けなどを行ってください。

1. 故障コードの再生

- ① 「履歴」を選択して ENTER キーを押してください。



- ② 「レポート再生」を選択して ENTER キーを押してください。

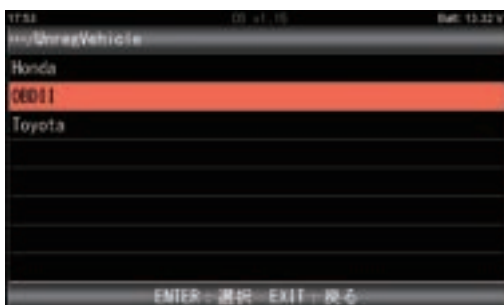


- ③ 再生したいデータを選択して ENTER キーを押します。

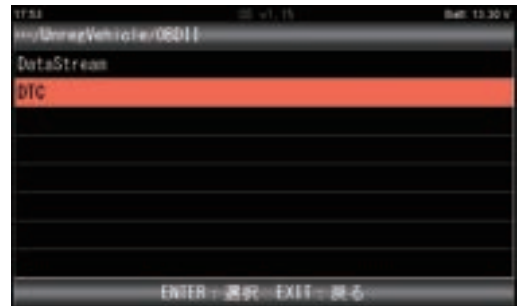
- 登録済車両 (RegVehicle)
車両登録で登録した車両の保存データを再生したい場合に選択します。
43 ページ「4. レポート再生、レポート削除での登録車両の選択」を参照ください。
- 未登録済車両 (UnregVehicle)
車両登録を行わずに保存したデータを再生したい場合に選択します。



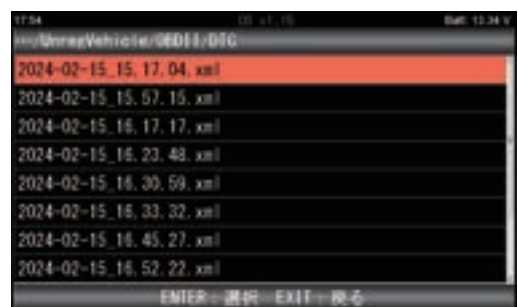
- ④ データ保存を実行した診断ソフトの一覧が表示されます。再生したいデータが保存されている診断ソフトを選択して ENTER キーを押してください。



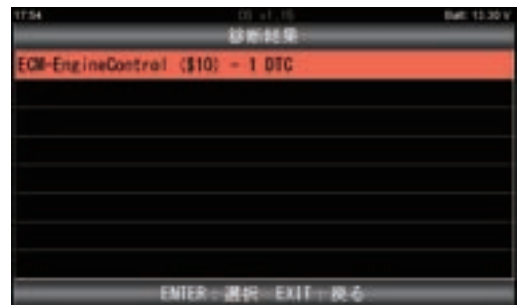
- ⑤ 保存データの種類の選択画面が表示されます。「DTC」を選択して ENTER キーを押してください。



- ⑥ 「DTC」の保存データ選択画面が表示されます。再生したいデータを選択して ENTER キーを押してください。



- ⑦ 保存したデータのシステムが表示されますので、選択して ENTER キーを押してください。

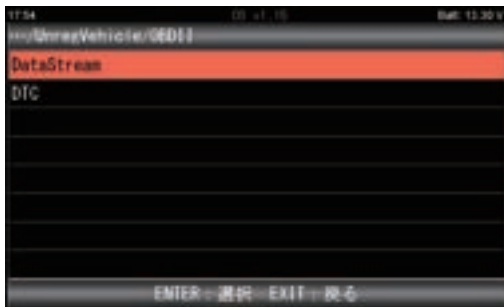


- ⑧ 保存されている DTC が再生されます。

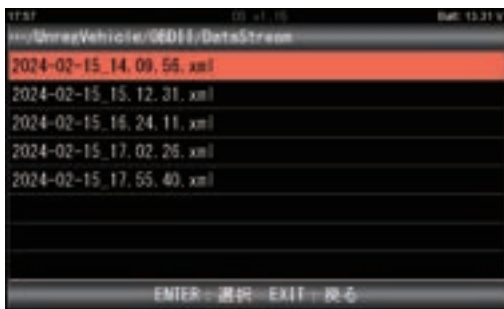


2. データモニタの再生

- 下記のいずれかを行ってください。
 - 未登録済車両 (UnregVehicle)
 - 41 ページの①～④を行ってください。
 - 登録済車両 (RegVehicle)
 - 43 ページの①～⑤を行ってください。
- 保存データの種類の選択画面が表示されます。「DataStream」を選択して ENTER キーを押してください。



- 「DataStream」の保存データ選択画面が表示されます。再生したいデータを選択して ENTER キーを押してください。

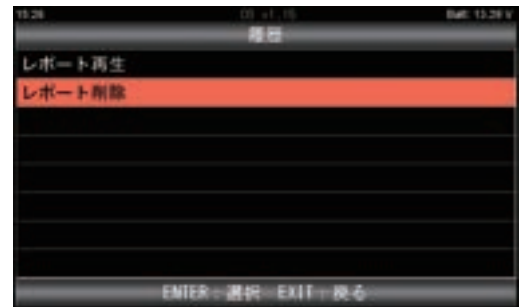


- 表示項目選択画面が表示されます。表示したい項目の選択を行った後、開始を選択して ENTER キーを押してください。保存データが表示されます。上下矢印キー、または PAGE UP か PAGE DOWN キーを押すと画面を上下にスクロールさせることが可能です。また、ENTER キーを押してから左右矢印キーを押すと保存データがコマ送りで表示されます。

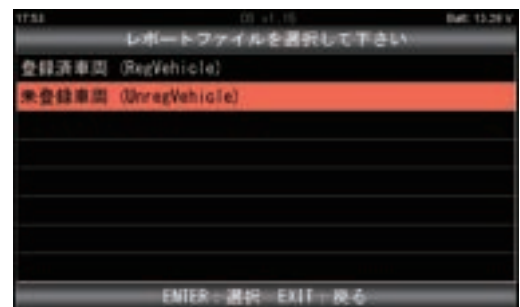


3. 保存データの削除

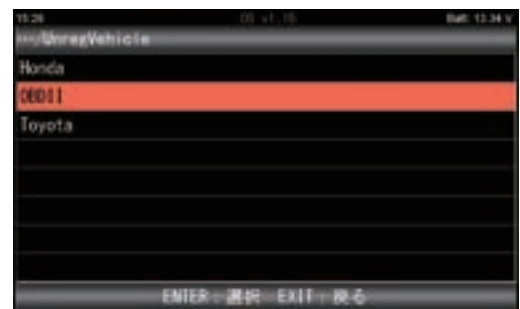
- 「履歴」で「レポート削除」を選択して ENTER キーを押してください。



- 削除したいデータを選択して ENTER キーを押します。
 - 「登録済車両 (RegVehicle)」を選択して ENTER キーを押した場合は 43 ページの「4. レポート再生、レポート削除での登録済車両の選択」の①～④を行ったあと、本ページの③以降の操作を行ってください。
 - 「未登録済車両 (UnregVehicle)」を選択して ENTER キーを押した場合は本ページの③以降の操作を行ってください。



- 一覧から削除を実行したい保存データがある診断ソフトを選択してください。



- 削除したいデータの種類を選択してください。

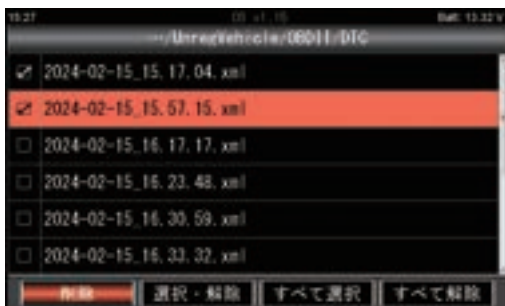


(次ページへ)

- ⑤ 画面下部の [選択・解除] [すべて選択] [すべて解除] のいずれかを選択して削除するファイルに を入れます。



- ⑥ 画面下部の [削除] にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ⑦ 下図のメッセージが表示されます。削除して良いデータであれば ENTER キーを押してください。



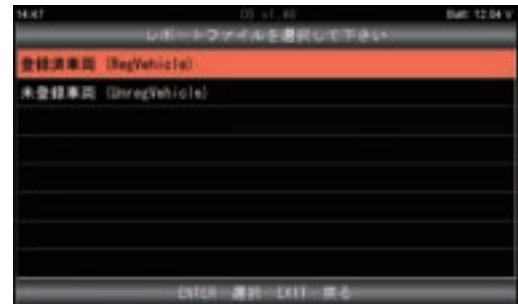
- ⑧ 保存データが削除されました。



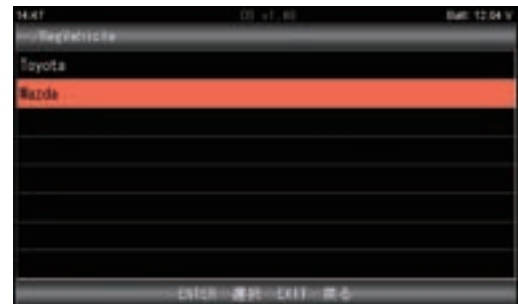
4. レポート再生、レポート削除での登録済車両の選択

車両登録で登録した車両のレポート再生やレポート削除を実行するときは以下①～④の操作を行ってください。

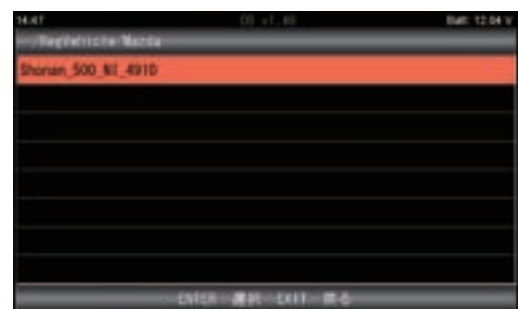
- ① 登録済車両にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ② メーカー選択画面が表示されます。レポート再生、またはレポート削除を実行したい登録済車両のメーカーにカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



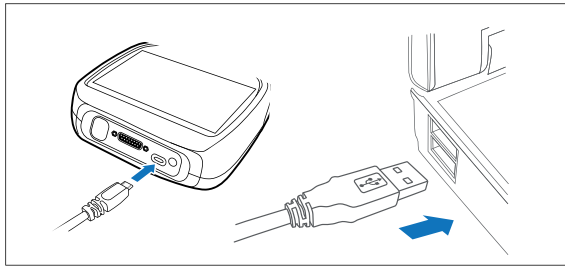
- ③ 登録済車両の選択画面が表示されます。レポート再生、またはレポート削除を実行したい登録済車両の情報にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



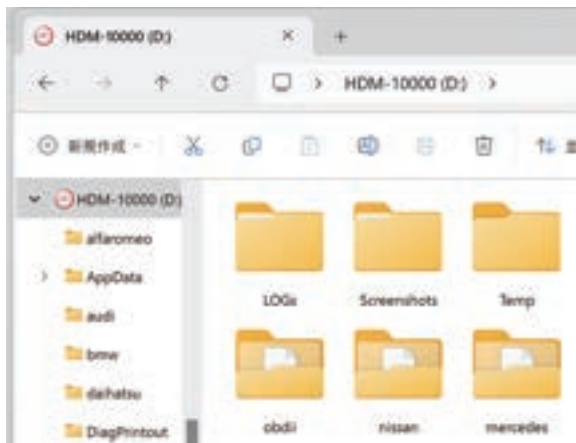
- ④ 保存されているデータの種類の表示されます。レポート再生、またはレポート削除を実行したいデータにカーソルを合わせて ENTER キーを押して、レポート再生、またはレポート削除を実行してください。

保存データをパソコンで閲覧する (表示例はWindows11での場合)

- ❶ HDM-10000 とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。

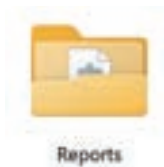


- ❷ パソコンの画面上に自動再生でHDM-10000 のフォルダーが開かれます。



パソコンの設定で自動再生が機能しない場合は画面下部のエクスプローラーからHDM-10000を開いてください。

- ❸ 「HDM-10000」フォルダー内にある「Report」をダブルクリックしてください。



- ❹ 下記のいずれかを行ってください。

- 未登録済車両の保存データを閲覧するとき「UnregVehicle」のフォルダーをクリックしてください。
- 登録済車両の保存データを閲覧するとき「RegVehicle」のフォルダーをクリック⇒メーカー別のフォルダーをクリック⇒登録済車両のフォルダーをクリックして❹に進みます。

- ❺ データ保存を実行した診断ソフト毎のフォルダーが表示されます。フォルダーを選択してクリックしてください。



- ❻ データ保存を実行した機能ごとのフォルダーが表示されますので選択してクリックしてください。



- ❼ 保存ファイルの一覧が表示されます。拡張子が html のファイルを選択してクリックしてください。



- ❽ ウェブブラウザが起動し、ウェブブラウザ上で保存データが再表示されます。(通常は Microsoft Edge で表示されます)



保存データの閲覧後、HDM-10000本体をパソコンから取り外す際は内部のファイルの破損防止のため、下記の手順で取り外しを行ってください。

- ① パソコン上のHDM-10000フォルダーを閉じてください。
- ② パソコンのタスクトレイの取り外しアイコンをクリックしてください。
- ③ 「OBDII SCAN TOOLの取り出し -HDM-10000」をクリックしてください。
- ④ 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、HDM-10000本体をパソコンから取り外してください。

診断結果を印刷する

HDM-10000 はセイコーインスツル株式会社のモバイルプリンター（MP-B20 または MP-B30/Bluetooth 接続モデル）と Bluetooth® 接続をして画面に表示されている内容を印刷することが可能です。初めて印刷を行う際は下記の設定を行ってください。

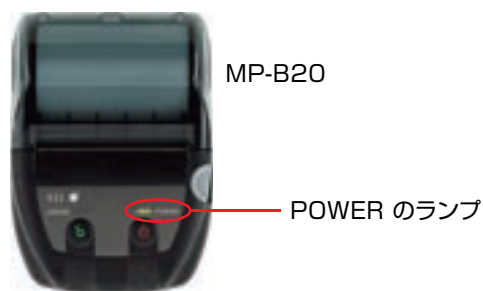
- ❶ 画面下部に「印刷」のファンクションキーが表示されている画面を表示させてください。



- ❷ プリンターを操作して接続モードにしてください。

(a) MP-B20 の場合

プリンター側の POWER のランプ（緑色）が点滅するまで電源ボタンを長押しして接続モードにしてください。



(b) MP-B30 の場合

POWER ランプ（下図の 3）が緑の点灯を行い、WIRELESS ランプ（下図の 2）の青い点滅が素早い点滅から 1 秒間に 2 回の点滅に変わるまで電源ボタン（下図の 1）を長押しして接続モードにしてください。

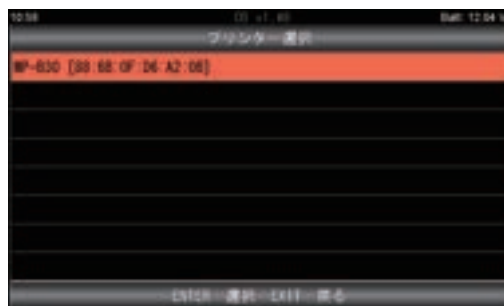


- ❸ 「印刷」のファンクションキーにカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ❹ 「検索中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示されます。

- ❺ 接続に成功するとプリンターの型名が画面に表示されます。ENTER キーを押してください。



※ 「プリンターが見つかりませんでした」と表示された場合は手順❷を再度行ってから ENTER キーを押してください。

- ❻ 「接続中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示されたあと、「印刷中しばらくお待ち下さい」が表示され、印刷が開始されます。



- ❼ 以上で接続の設定は完了です。以後、❷から❺の操作は行わなくても、画面上の「印刷」のファンクションキーにカーソルを合わせて ENTER キーを押すと印刷が実行されます。

●Bluetooth® は Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。

DiagPrintout-2について

- DiagPrintout-2はHDM-10000本体内に内蔵された点検整備レポートを作成するソフトです。
- HDM-10000本体とWindows 10以上のPCをUSBケーブルで接続して、PC上でDiagPrintout-2を起動し、HDM-10000本体内に保存された全自己診断結果やエラー作業の履歴をもとに車両所有者向けの愛車診断レポート、作業サポートレポートを作成することが可能です。
- 愛車診断レポート、作業サポートレポートはPDFで出力することでPC内に保存することが可能です。
- HDM-10000本体に内蔵されているDiagPrintoutはDiagPrintout-2の前のバージョンのソフトです。DiagPrintout-2と近似の操作方法で「愛車診断レポート」を作成するソフトのため、本書ではDiagPrintout-2での「愛車診断 レポート」の作成方法を記載しております。

1. 愛車診断レポート

- HDM-10000本体内の保存された各診断ソフトの全自己診断の結果をもとに作成する点検レポートです。車両所有者へのスキャンツールによる点検結果の説明などに活用してください。
- 車両所有者の車両情報、全自己診断結果、自社情報を入力して組み合わせて作成します。
- PCに接続されたプリンターからの印刷、PDFファイルでの出力が可能です。

愛車診断レポート

お客様名 : 石田愛子様
メーカー : スバル 車種 : インプレッサ
登録番号 : 横浜300さ4074 車両番号 : 123456
車両型式 : GT3 初年度 : 2021/05
走行距離 : 24000 km 診断日 : 2024/05/08

システム	故障コード	内容
エンジン	なし	
トランスミッション	なし	
ブレーキコントロール	なし	
ボディコントロール	なし	
エアバッグ	なし	
歩行者保護	なし	
エアコン	なし	
パワーステアリング	なし	
アイサイト	なし	
コンビネーションメータ	なし	
マルチファンクションディスプレイ	なし	
パワーウィンドウ (運転席)	なし	
パワーウィンドウ (助手席)	なし	
パワーウィンドウ (スイッチ)	なし	
後退時ブレーキアシスト	なし	
キーレスエントリー	なし	

東洋自動車整備工場
担当者 : 栗田太郎
〒135-0062
東京都江東区東雲2-10-14
TEL : 03-0000-0000 / FAX : 03-0000-0000
メール : hitachi@hitachiasemo.com
使用テスタ : HDM-10000

1 / 1

DiagPrintout-2を操作して車両所有者の車両情報を入力します。

DiagPrintout-2を操作してHDM-10000に保存された全自己診断結果を入力します。

DiagPrintout-2を操作して自社情報を入力します。

愛車診断レポート (例)

※出力される枚数は全自己診断結果のシステム数により異なります。

DiagPrintout-2について

2. 作業サポートレポート

- HDM-10000で実行した全自己診断の結果、エラー作業の履歴をもとに作成するレポートです。車両所有者へのエラー作業の内容や結果、入庫時の車両の状態の説明、作業履歴の管理などに活用してください。
- 車両所有者の車両情報、入庫時の全自己診断結果、エラー作業の履歴、出庫時の全自己診断結果、自社情報を組み合わせて作成します。
- PCに接続されたプリンターからの印刷やPDFファイルでの出力が可能です。

The screenshot shows a '作業サポートレポート' (Work Support Report) with the following content:

作業サポートレポート

お客様名：石田愛子様
メーカー：スバル 車種：インプレッサ
登録番号：横浜300さ4074 車台番号：123456
車両型式：GT3 初年度：2021/05
走行距離：24000 km 作成日：2024/05/10

作業報告

【診断結果(入庫時)：2024/05/08】

システム	故障コード	内容
全てのシステム	なし	

【作業サポート実行結果】

実施日時	項目	結果
2024/05/08 19:10	スバル(作業サポート)アイサイトのカメラ全画面モード(交差/前後)	正常に終了しました。

【診断結果(出庫時)：2024/05/08】

システム	故障コード	内容
全てのシステム	なし	

東洋自動車整備工場
担当者：栗田太郎
〒135-0062
東京都江東区東雲2-10-14
TEL：03-0000-0000 / FAX：03-0000-0000
メール：Hitachi@Hitachisystem.com
使用システム：HDM-10000

1 / 4

Callout 1: DiagPrintout-2を操作して車両所有者の車両情報を入力します。

Callout 2: DiagPrintout-2を操作して下記①～③を入力します。

- ①診断結果(入庫時)
HDM-10000によるエラー作業前の全自己診断結果と実施した日時
- ②作業サポート実行履歴
HDM-10000によるエラー作業履歴と実施日時
- ③診断結果(出庫時)
HDM-10000によるエラー作業後の全自己診断結果と実施した日時

Callout 3: DiagPrintout-2を操作して自社情報を入力します。

作業サポートレポート (例)

DiagPrintout-2について

2. 作業サポートレポート

- 作業サポートレポートでは自社で行ったエーミング作業の保証書を任意で追加して出力することも可能です。
- 保証条件の記載内容の変更はHDM-10000本体内の「DiagPrintout」のフォルダー内にある「WsWaranty」のファイルを開き、変更内容の入力後、上書き保存を行ってください。



保証書(例)

- 作業サポートレポートでは入庫時の全自己診断結果と出庫時の全自己診断結果をシステム毎の点検結果一覧にして出力することも可能です。

システム名	診断コード	状態
エンジン		正常
トランスミッション		正常
ブレーキシステム		正常
ステアリング		正常
エンジン		正常
燃料系		正常
エアフロー		正常
パワーウィンドウ		正常
ドアロック		正常
ABS		正常
パワーステアリング		正常
パワーステアリング補助機		正常
パワーステアリングセンサー		正常
パワーステアリングモーター		正常
パワーステアリングコントロールユニット		正常
パワーステアリングシステム		正常
パワーステアリングシステム		正常

入庫時の全自己診断結果(例)

システム名	診断コード	状態
エンジン		正常
トランスミッション		正常
ブレーキシステム		正常
ステアリング		正常
エンジン		正常
燃料系		正常
エアフロー		正常
パワーウィンドウ		正常
ドアロック		正常
ABS		正常
パワーステアリング		正常
パワーステアリング補助機		正常
パワーステアリングセンサー		正常
パワーステアリングモーター		正常
パワーステアリングコントロールユニット		正常
パワーステアリングシステム		正常
パワーステアリングシステム		正常

出庫時の全自己診断結果(例)

DiagPrintout-2について

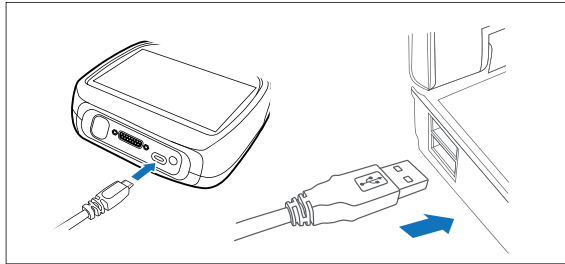
3. 愛車診断レポートの作成方法

3-1. 全自己診断結果の保存

17～22 ページを参照のうえ、車両の全自己診断を行い、全自己診断結果の保存を行ってください。

3-2. DiagPrintout-2 の起動

- ① HDM-10000 本体を付属の USB ケーブルで PC と接続してください。HDM-10000 が起動します。

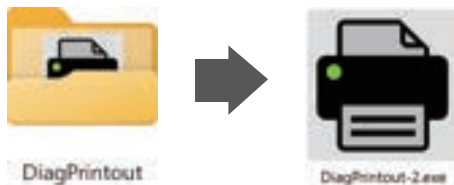


- ② HDM-10000 のフォルダーが PC の画面上に表示されます。



フォルダーの自動再生が実行されない場合は、パソコンの画面下部に表示されているタスクバーの「エクスプローラ」をクリックしてください。その後、「HDM-10000」をクリックして、フォルダーを表示させてください。

- ③ HDM-10000のフォルダー内のDiagPrintoutのフォルダーをクリックし、次にDiagPrintout-2 をクリックしてください。



- ④ DiagPrintout - 2 が起動します。



3-3. 自社情報の入力

- ① DiagPrintout - 2 の「自社情報」をクリックしてください。(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- ② 「自社情報」が表示されましたら、PC を操作して自社の情報を入力し、最後に「OK」をクリックしてください。(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- ③ 「自社情報」の入力が完了します。入力内容の変更を行う以外は、レポートの作成都度、本操作を行う必要はございません。尚、入力内容の変更を行う際は上記①②を行ってください。



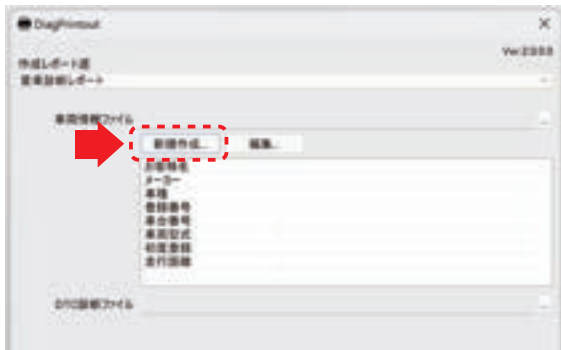
「自社情報」は HDM-10000 本体内の DiagPrintout のフォルダーにファイル名 Companyinfo.cix で保存されます。

DiagPrintout-2について

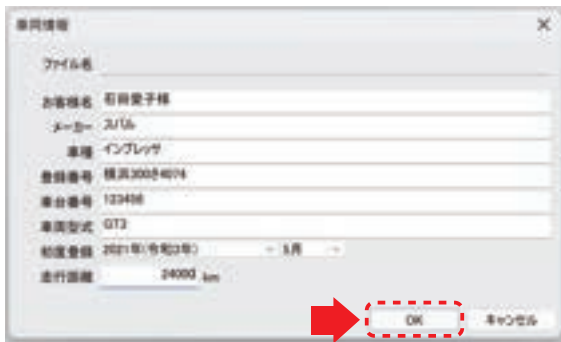
3-4. 車両情報の入力

車両所有者の車両情報の入力を行ってください。

- 1 DiagPrintout-2 の「車両情報ファイル」の「新規作成」をクリックしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- 2 「車両情報」が表示されましたら、PC を操作して入庫車両の情報を入力し、最後に「OK」をクリックしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- 3 「名前をつけて保存」が表示されましたら、PC 内、または HDM - 10000 の任意の保存場所にファイル名をつけて保存してください。



「車両情報」は任意で選択した保存場所に「ファイル名.vix」で保存されます。また、HDM-10000の保存容量には限りがございますので、PC内での保存を推奨します。

- 4 DiagPrintout-2 に②で入力した車両情報が表示されれば、車両情報の入力は完了です。



保存済みの車両情報の呼び出しは下図の赤い矢印の場所をクリックして保存場所を表示させ、保存済みの車両情報の呼び出しを行ってください。また、保存済みの車両情報を編集する際は「新規作成」の隣にある「編集」をクリックしてください。



DiagPrintout-2について

3-5. 全自己診断結果の入力

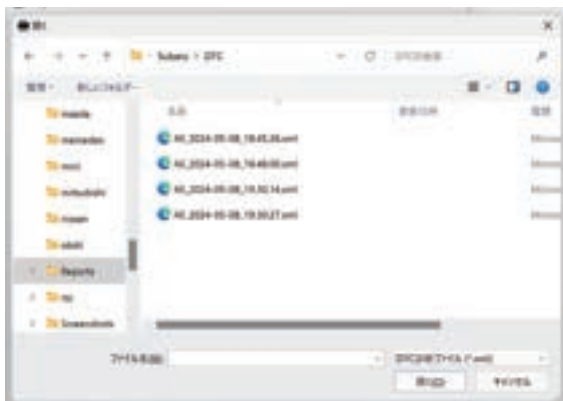
- ① 「DTC 診断ファイル」の右端にあるボタンをクリックしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



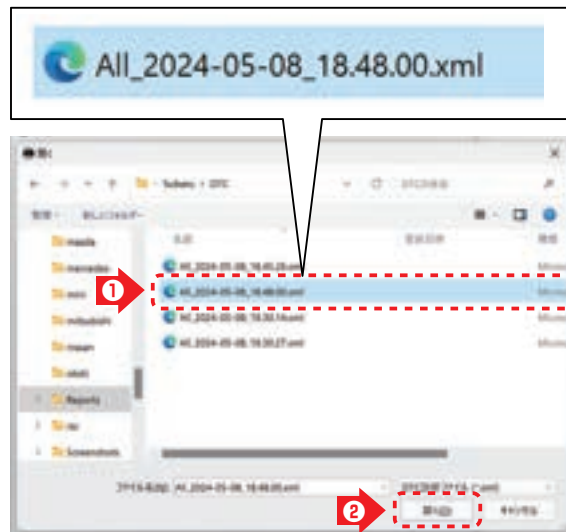
- ② 「開く」が表示されます。
下記のいずれかを行ってください。

●車両情報登録を行っている場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Regvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒車両情報名のフォルダー
⇒DTCのフォルダー
の順番に開いてください。

●車両情報登録を行っていない場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Unregvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒DTCのフォルダー
の順番に開いてください。



- ③ 愛車診断レポートに入力したい全自己診断結果のファイルをクリックし、右下の「開く」をクリックしてください。
(赤い矢印の場所を順にクリックしてください)



全自己診断結果のファイル名(例)



全自己診断結果のファイル名は先頭に「All」がつき「All_データ保存を実行した年月日_時刻」の形式で表示されます。

また、「データ保存を実行した年月日_時刻」はHDM-10000本体の内部時計の時刻です。

- ④ 全自己診断結果のファイルが Diagprintout-2 に入力されます。(赤い矢印の場所に入力されます)



DiagPrintout-2について

3-6. 愛車診断レポートの出力

- 1 DiagPrintout-2 の下部に表示されている「印刷プレビュー」をクリックしてプレビューを表示させて入力内容を確認してください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- 2 プレビューを確認後、プレビュー内の「閉じる」をクリックしてください。
- 3 DiagPrintout-2 の下部に表示されている「印刷」をクリックしてしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- 4 「印刷」が表示されます。プリンター名の欄に PDF 作成ソフトを選択して OK をクリックしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください。)



- 5 「印刷結果を名前をつけて保存」が表示されます。任意のファイル名をつけて任意の場所に保存をしてください。
- 6 状況に応じて保存した「愛車診断レポート」を PC につながるプリンターから印刷してください。



上記④でプリンターを選択して、直接印刷を実行することも可能ですが、この場合、愛車診断レポートが保存されませんので、一旦、PDF ファイルで出力して保存することを推奨します。※作業サポートレポートも同様です。

DiagPrintout-2について

4. 作業サポートレポートの作成方法

4-1. 全自己診断、エーミングの実行

- ① HDM-10000 を車両に接続して、各診断ソフトの「診断」の全自己診断を実行して、入庫時、出庫時の全自己診断結果の保存と、「作業サポート」のエーミング機能を実行してください。
また、HDM-10000 メインメニューの「特殊機能」の「エーミング」から全自己診断とエーミングを行う場合は下記②～③の操作を行ってください。



10ページの「車両登録」を行ってから全自己診断結果の保存とエーミングの機能を実行すると作業サポートレポート作成時の全自己診断結果の検索やエーミングの作業履歴の検索が行いやすくなります。

- ② HDM-10000 を操作して「メインメニュー」⇒「特殊機能」⇒「エーミング」に進みます。



- ③ エーミングのメニューが表示されましたら、「全自己診断」⇒「診断ソフト」の選択を行い、診断ソフトを操作して全自己診断を行い、入庫時の全自己診断結果を保存してください。



- ④ 再度、エーミングのメニューに戻り、「エーミング作業」⇒「診断ソフト」の選択を行い、エーミングを実行して、履歴を HDM-10000 本体内に保存してください。



エーミングの実行履歴のファイル名はエーミングを実行した時点でのHDM-10000本体の内部時計の時刻となります。例えばHDM-10000本体の内部時計が2024年4月25日の17時33分40秒の時にエーミングを実行すると、ファイル名は「Aim_2024-04-25_17.33.40」となりますので、内部時計の設定を正しく行い、エーミング作業実行時は実行した時間のメモを行うことを推奨します。

- ⑤ エーミング作業が完了しましたら、HDM-10000 を操作してエーミングのメニューを表示させ「全自己診断」⇒「診断ソフト」の選択を行い、診断ソフトを操作して全自己診断を行い、出庫時の全自己診断結果を保存してください。



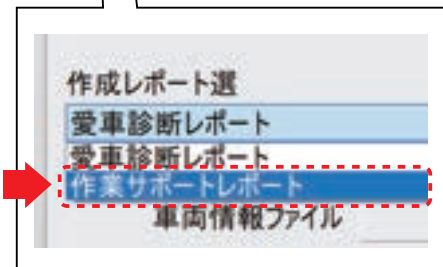
4-2. 車両情報の入力まで

49ページの「3-2.DiagPrintout-2の起動」から50ページの「3-4.車両情報の入力」を参照し、作業サポートレポートに入力する自社情報、車両情報の入力を行ってください。

DiagPrintout-2について

4-3. 全自己診断結果（入庫時）の入力

- 1 DiagPrintout-2 の上部にある「作成レポート選」の下にある欄をクリックして「作業サポートレポート」を選択してください。



- 2 DiagPrintout - 2 に作業サポート結果ファイルの入力欄が表示されます。「DTC 診断ファイル（入庫時）」の右端にあるボタンをクリックしてください。（赤い矢印の場所をクリックしてください。）

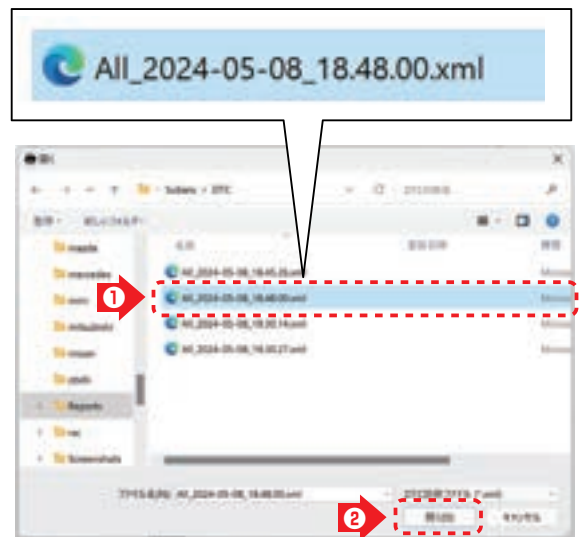


- 3 「開く」が表示されます。下記のいずれかを行ってください。

- 車両情報登録を行っている場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Regvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒車両情報名のフォルダー
⇒DTCのフォルダー
の順番に開いてください。

- 車両情報登録を行っていない場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Unregvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒DTCのフォルダー
の順番に開いてください。

- 4 愛車診断レポートに入力したい全自己診断結果のファイルをクリックし、右下の「開く」をクリックすると全自己診断結果が DiagPrintout-2 に入力されます。（赤い矢印の場所を順にクリックしてください）



全自己診断結果のファイル名は先頭に「All」がつき「All_データ保存を実行した年月日_時刻」の形式で表示されます。また、「データ保存を実行した年月日_時刻」はHDM-10000本体の内部時計の時刻です。

(次ページへ)

DiagPrintout-2について

4-4. エーミングの履歴の入力

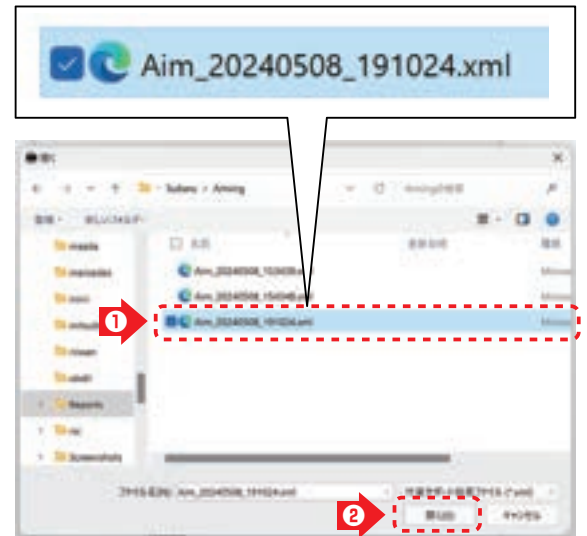
- ① 「作業サポート結果ファイル」の右端にある「追加」をクリックしてください。
(赤い矢印の場所をクリックしてください)



- ② 「開く」が表示されます。
下記のいずれかを行ってください。

- 車両情報登録を行っている場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Regvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒車両情報名のフォルダー
⇒Aimingのフォルダー
の順番に開いてください。
- 車両情報登録を行っていない場合
⇒HDM-10000のフォルダー内のReport
⇒Unregvehicle
⇒カーメーカー別フォルダー
⇒Aimingのフォルダー
の順番に開いてください。

- ③ 作業サポートレポートに入力したいエーミングの履歴のファイルをクリックし、右下の「開く」をクリックしてください。(赤い矢印の場所を順にクリックしてください。)



エーミングの履歴のファイル名は先頭に「Aim」がつき「Aim_データ保存を実行した年月日_時刻」の形式で表示されます。
また、「データ保存を実行した年月日_時刻」はHDM-10000本体の内部時計の時刻です。

- ④ 作業サポート結果ファイルの欄にエーミングの履歴が入力されます。



(次ページへ)

DiagPrintout-2について

4-5. 診断結果（出庫時）の入力

- ① 「作業サポート結果ファイル」の下にある「DTC 診断ファイル（出庫時）」の右端にあるボタンをクリックしてください。（赤い矢印の場所をクリックしてください。）



- ② 54 ページの「4-3. 全自己診断結果（入庫時）の入力」の②～④の操作で、エーミング作業完了後に行った全自己診断結果を DiagPrintout-2 に入力してください。
- ③ 「DTC 診断ファイル（出庫時）」の上部にあるレポート作成日の日付（赤い矢印の場所）を確認してください。日付を変更する場合は日付の表示の右にあるボタンをクリックして日付の変更を行ってください。



- ④ 状況に応じて「保証条件ページの印刷」「DTC 詳細ページの印刷」にチェックを入れて出力を設定してください。（赤枠の場所）



4-6. 作業サポートレポートの出力

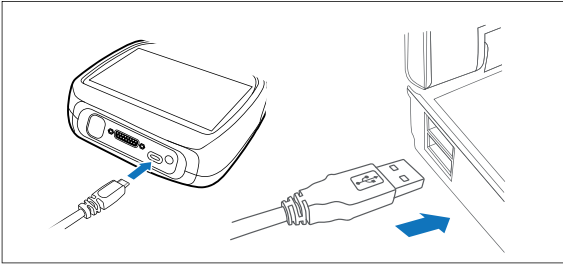
52 ページの「3-6. 愛車診断レポートの出力」を参照し、作業サポートレポートの出力を行ってください。

ユーザー情報の変更/不具合発生時の対応について

1. ユーザー情報の変更

初期設定で登録されたユーザー情報をもとに製品情報のご連絡、ダウンロード料金の振込用紙の送付などを行っているため、事業所の移転やHDM-10000の譲渡などが発生した際は下記の操作方法でユーザー登録情報の変更を行ってください。

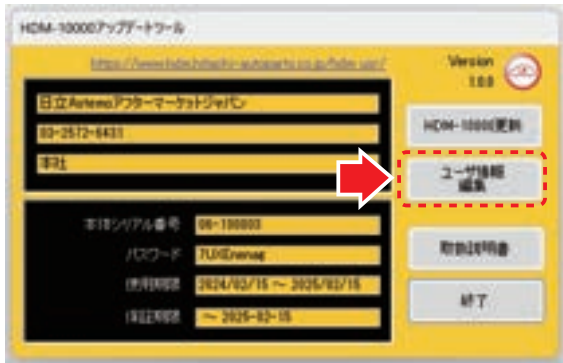
- ① HDM-10000 と PC を付属の USB ケーブルで接続してください。



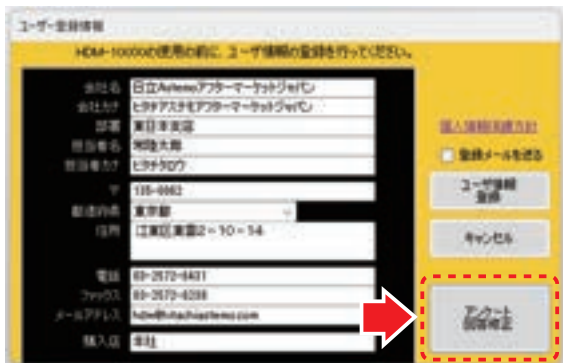
- ② PCの画面上にHDM-10000フォルダーが開きます。フォルダー内のHDM-10000.exeのアイコンをクリックしてください。



- ③ HDM-10000 アップデートツールが起動します。ユーザー情報編集をクリックしてください。(赤い矢印の場所をクリックしてください。)



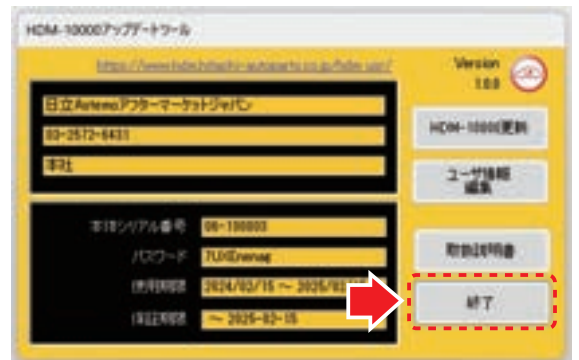
- ④ ユーザー登録情報が表示されましたら「アンケート回答修正」をクリックしてください。(赤い矢印の場所をクリックしてください。)



- ⑤ ユーザー登録情報の全体が表示されましたら、変更のあった項目の入力、アンケート回答の再入力を行い、最後に「ユーザー情報登録」をクリックしてください。(赤い矢印の場所をクリックしてください。)



- ⑥ アップデートツールの「終了」をクリックして完了です。(赤い矢印の場所をクリックしてください。)



- ⑦ パソコンのタスクバーに表示されているUSBのアイコンをクリックして「ハードウェアの安全な取り外し」を実行し、HDM-10000をパソコンから取り外してください。

ユーザー情報の変更/不具合発生時の対応について

2. 液晶画面に「×」マークが表示された場合

液晶画面に「×」マークが表示された場合、内部のファイルに破損が発生している場合があります。本体内部メモリーをフォーマットする必要があります。

フォーマット前に必要な以下のファイルをパソコンにコピーして保存してください。

- ・ HDM10000Downloader.exe(アプリケーション)
- ・ pass.ini(構成設定ファイル)
- ・ Newtonsoft.Json.dll

保存後フォーマットを行います。フォーマット後保存した3つのファイルを本体内部メモリーに戻して再度アップデートを行ってください。

尚、上記を行っても症状が改善されない場合や診断ソフトのダウンロード期限が切れている場合は弊社のカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

3. 車両との通信ができないとき

診断ソフトの対象車両との通信時に通信エラーが発生する際は14～15ページの「2.PCによるアップデート」を行い、ソフトを最新の状態にしてください。その後、再度、通信を行っても通信エラーが発生する場合はHDM-10000に記録された通信ログを調査することで原因を把握できる場合があるため、14～15ページの「2.PCによるアップデート」を行い、弊社サーバーへ通信ログのアップロードを行ったあと、弊社のカスタマーサポートセンターへ発生車両の年式、型式、エンジン型式、お手元のHDM-10000本体のシリアルナンバー、発生状況をご連絡ください。弊社サーバーにアップロードされた通信ログを元に調査を行います。

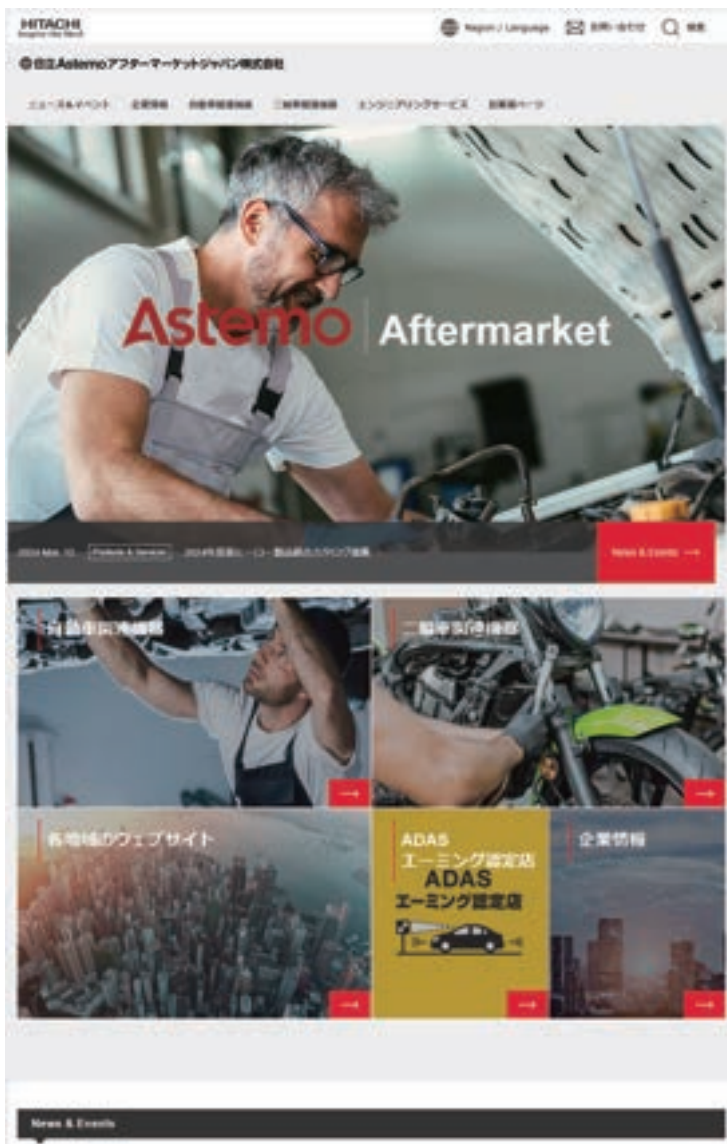
ホームページのご案内

日立Astemoアフターマーケットジャパン(株)ホームページより、HDM-10000の製品情報や料金についての案内を閲覧することができます。

以下のURLにアクセスし、トップ画面の「自動車関連機器」⇒「自動車整備用品」の順番でHDM-10000の製品ページにおすすみください。

日立 Astemo アフターマーケットジャパン株式会社 ホームページ URL

<http://aftermarket.hitachiastemo.com/japan/ja/>



保証

保証期間：ユーザー登録から 1 年間

期間終了後 1 か月以内にアップデート延長を申し込みされた場合に限り、本体保証期間も 1 年間延長されます。アップデートおよび本体保証期間は HDM-10000 の電源を入れていただき、「本体 ID」からご確認いただけます。

保証規定

1. 取扱説明書などの注意書に基づくお客様の正常なご使用状態のもとで保証期間内に万一故障した場合、無料にて故障箇所の修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。
2. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責任を負わないものとします。
3. 不当な改造については弊社は一切の責任を負わないものとします。
4. 修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、または送付される場合の送料および諸掛りはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は適切な梱包のうえ、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 次のような場合には、保証期間内でも保証の対象となりません。
 - (1) お客様による輸送、移動時の落下、衝撃など、お客様の取り扱いが適切でないために生じた故障および損害。
 - (2) お客様による使用上の誤り、各構成部品の紛失、あるいは修理による故障および損害。
 - (3) 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損害。
 - (4) 本製品に接続している弊社指定以外の機器および消耗品に起因する故障および損害。
6. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合、出張に要する実費を申し受けます。
7. 消耗部品（内蔵電池など）や USB ケーブル・OBD II ケーブル、シガー電源ケーブル、AC アダプタ、キャリングケースは保証の対象外となります。
8. ご不明の点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
9. 本保証に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って本保証によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
10. 本保証は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan.)

販売元 日立Astemoアフターマーケットジャパン株式会社

〒135-0062 東京都江東区東雲2-10-14

お問い合わせ先

本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または日立 Astemo アフターマーケットジャパン（株）カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

カスタマーサポートセンター TEL. 03-3527-6323 FAX. 03-3527-6324

■ 営業時間：9：00～17：30（土・日・祝日および弊社休業日を除きます）